

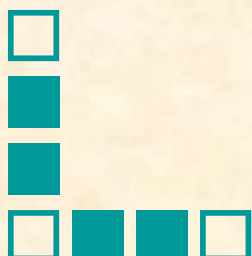


# 戦後80年事業 中学生沖縄派遣事業 成果報告書



Odawara → → → Okinawa

 小田原市



# 目次

---

1. はじめに	1
2. 事業概要	2
3. 実施内容	
○ 第1回事前学習	4
○ 第2回事前学習	5
○ 沖縄派遣	6
○ 第1回・第2回事後学習	9
○ 成果報告会	10
4. 発表スライド	11
5. 派遣報告	
○ A班	15
○ B班	21
○ C班	29
○ D班	37
7. 私の平和宣言	44
8. 平和都市宣言文	45

## はじめに

---

令和7年は戦後80年の節目の年にあたり、平和について改めて考える重要な機会となります。世界に目を向けると、ロシアによるウクライナへの侵攻やイスラエルとガザ地区における衝突など、戦争や軍備増強のニュースが絶えない状況にあります。この現状は、平和が決して当たり前ではなく、戦争が依然として私たちの世界に存在していることを物語っています。

これまでも小田原市は、戦争による惨禍を繰り返さないよう、平和を守り、平和の大切さを伝えていくことを責務として、様々な活動を行ってきました。

そしてこの節目の年に、平和について改めて考える契機とするため、次世代を担う市内在住の中学生を、地上戦が行われた沖縄へ派遣する「中学生沖縄派遣事業」を実施しました。

参加した24名の生徒は、事前学習・沖縄訪問・事後学習の行程の中で、戦争の悲惨さやいのちの大切さについて学び、仲間とともに「平和のために自分たちは何ができるのか」を話し合う貴重な経験をしました。

この「成果報告書」には、派遣生徒が実際に感じたことや学んだこと、そして「平和を創る」という視点で平和への願いが込められています。今回の事業を通して、学校や地域の中で「平和とは何か」それぞれの立場で考え、行動してもらうきっかけになるとともに、次世代への平和を希求する思いが受け継がれることを切に願います。

末筆ではありますが、本事業の実施にあたりご協力いただきました皆様に心からお礼申し上げます。

令和8年3月

小田原市長 加藤 憲一

## 事業概要

### 【目的】

戦後80年を迎えるにあたり「小田原市平和都市宣言」の主旨を継承しつつ、戦争の悲惨さやいのちの大切さについて学び、新たに「平和を創る」という観点を加え先の大戦で地上戦となった地を若い世代が訪れ、平和について自ら考える力を養う。

### 【事業日程】

	日時	内容
第1回事前学習	令和7年7月5日(土) 9時～正午	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市長あいさつ</li> <li>・事業概要、日程説明</li> <li>・アイスブレイク</li> <li>・講話「戦争末期の沖縄と小田原～沖縄に行く中学生のために～」 講師：戦時下の小田原地方を記録する会 井上 弘先生</li> <li>・グループディスカッション(1)</li> <li>・発表</li> </ul>
第2回事前学習	令和7年7月12日(土) 9時～正午	<ul style="list-style-type: none"> <li>・アイスブレイク</li> <li>・グループディスカッション(2) (課題の意見共有)</li> <li>・発表</li> <li>・係決め</li> <li>・グループディスカッション(3) (報告会に向けた方向性)</li> <li>・発表</li> <li>・沖縄訪問に向けて確認事項</li> </ul>
沖縄派遣	令和7年8月5日(火)～7日(木)2泊3日	
第1回事後学習	令和7年8月16日(土) 9時～正午	<ul style="list-style-type: none"> <li>・グループディスカッション(4) (アイデア整理・構成決め)</li> <li>・写真選定</li> <li>・グループディスカッション(5) (スライド作成)</li> <li>・原稿作成</li> </ul>
第2回事後学習	令和7年8月23日(土) 9時～正午	<ul style="list-style-type: none"> <li>・グループディスカッション(6)</li> <li>・各班発表</li> <li>・総評(井上弘先生)</li> </ul>
成果報告会	令和7年11月8日(土) 13時～14時30分	<ul style="list-style-type: none"> <li>・グループ発表</li> </ul>
平和の樹植樹式	令和7年11月8日(土) 14時30分～15時	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「被爆アオギリ二世」の植樹</li> </ul>

【派遣生徒】

◎ A班（5名）

学校名	学年	氏名
橘中学校	3	すずき みおな 鈴木 美旺菜
酒匂中学校	2	たけい ゆうな 武井 優那
城北中学校	2	たかはし あゆか 高橋 あゆ佳
県立平塚中等教育学校	2	ながやま ここな 長山 心奏
泉中学校	1	しんたに しゅうじ 新谷 柊二

◎ B班（6名）

学校名	学年	氏名
鴨宮中学校	3	もんま まいな 門間 まいな
白鷗中学校	2	すずき ななみ 鈴木 七海
城山中学校	2	おおみづ こう 大水 后
サレジオ学院中学校	2	おくの かずき 奥野 和輝
白鷗中学校	1	しらかた れいな 白方 怜奈
橘中学校	1	おおの みづき 大野 満月

◎ C班（7名）

学校名	学年	氏名
鴨宮中学校	2	やすだ かすみら 保田 カスミラ千代子
酒匂中学校	2	おおの みさき 大野 幸咲
泉中学校	2	なかうち ゆうひ 仲内 優姫
城北中学校	2	きのした こはる 木下 呼春
千代中学校	1	いとう はるや 伊藤 陽哉
城山中学校	1	わたなべ ゆうな 渡辺 優菜
城南中学校	1	たくち ひろと 田口 大翔

◎ D班（6名）

学校名	学年	氏名
城南中学校	2	とざわ ここみ 兔澤 心々美
千代中学校	2	いしづか うた 石塚 詩
酒匂中学校	2	たかだ ゆな 高田 夢奈
橘中学校	2	さかもと みらい 坂本 美来
白山中学校	1	せと なおこ 瀬戸 直子
日大三島中学校	1	たかはし かのん 高橋 果希

【引率者】

氏名	職名
いしづか のがかず 石塚 宣一	総務部総務課 課長
ふじさわ しんご 藤澤 信吾	総務部総務課 副課長
えびはら かえで 海老原 楓	総務部総務課 主事

【事務局】

氏名	職名
おおさわ ひろし 大澤 弘	総務部総務課 主査
しもだいら ともひろ 下平 智大	総務部総務課 主任
たちかわ ひなこ 立川 妃奈子	総務部総務課 主事

# 第1回事前学習

◎日時：令和7年7月5日（土）9時～正午

◎場所：市役所大会議室

事前学習冒頭、市長から「この事業の意義」「沖縄訪問で学び感じてほしいこと」「市民を代表して沖縄に行ってもらおうこと」「学んだことを多くの友人や地域の皆さんに広げてほしい旨」などの言葉を受け、市の代表として決意を新たにした派遣生徒たち。その後、自己紹介を含めたアイスブレイクで緊張をほぐし、「戦争末期の沖縄と小田原」について、戦時下の小田原地方を記録する会に所属する井上弘先生の講義を聴きました。



市長から派遣生徒へ応援メッセージ！



井上弘先生の講義「戦争末期の沖縄と小田原」



グループワーク  
「平和だなと感じるときは？」  
「その平和を守るためにできることは？」  
自分の考えを付箋に書いて貼っていきます。



班員同士で議論し、グルーピングして意見を整理！



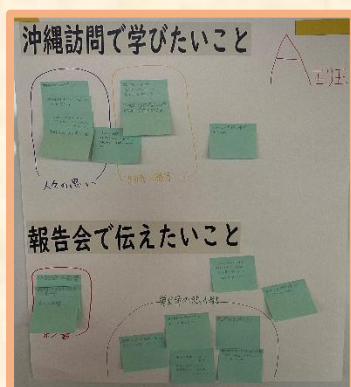
班ごとに出た意見を発表しました。

## 第2回事前学習

◎日時：令和7年7月12日（土）9時～正午

◎場所：市役所食堂

各自が事前に調べてきた沖縄の戦争に関する施設の特徴や歴史、学びたいことをグループ内で話し合い、互いの意見を共有することで訪問先への理解を深めました。



グループごとに「実際にその施設で何を見て、どのようなことを学びたいか」について意見を出し合い、話し合いながらまとめていきました。



まとめの作業では、「調べてきたこと」や「見学で注目したいこと」をそれぞれ付箋に書き出し、自分の考えを班のメンバーに説明しながら模造紙に貼っていきました。意見がそろった後は、似た意見をグルーピングしたり、共通するキーワードを見つけたりするなど、各グループで工夫を凝らしながら模造紙を完成させました。

その後、生徒たちは、自分たちの思いや関心を言葉にしなが意見をしり合わせ、グループごとに一つの考えとして発表しました。



# 沖縄派遣（2泊3日）

1st  
day

8月5日（火）

小田原→沖縄

6:20～  
小田原駅出発

◆小田原駅で出発式～沖縄到着



出発式での市長あいさつ



移動中の様子

12:10  
那覇空港

12:40～  
レストランショップ  
琉球

◆昼食



14:15～  
ひめゆりの塔・  
ひめゆり平和  
祈念資料館

◆ひめゆりの塔・ひめゆり平和祈念資料館見学

1945年の沖縄戦で亡くなった  
沖縄師範学校女子部・沖縄県立  
第一高等女学校の生徒や教師  
のための慰霊碑や、ひめゆり学  
徒隊が体験した沖縄戦の実相  
を学びました。



15:55～  
平和祈念公園

◆平和祈念公園（資料館）



平和祈念公園  
では、沖縄戦で  
亡くなられたす  
べての人々の  
氏名を刻んだ  
「平和の礎」や沖縄戦の写真、遺品な  
どの展示を見学しました。

18:40～  
とうばらーま

◆夕食



2st  
day

8月6日(水)

沖縄滞在

9:00～  
対馬丸記念館

◆対馬丸記念館見学



1944年に沖縄から本土へ学童疎開の途中で米軍の攻撃を受け、多くの子供たちや引率者が命を落とした「対馬丸事件」について学びました。展示されている資料や遺品、姉を実際に亡くされた遺族の方の話を聞く機会もあり、戦争によって平穏な日常が突然奪われた悲しみと、命の尊さを感じました。

9:45～  
首里城

◆首里城

琉球王国の歴史と文化を象徴する首里城を訪れ、首里城の地下に作られた司令部壕の入り口などを見学しました。



12:30～  
ユインチホテル

◆昼食



13:30～  
アブチラガマ

◆アブチラガマ見学

戦時中に住民や負傷兵が避難していた壕の中を実際に見学しました。ガイドの方の説明を聞きながら、暗く湿った空気の中での厳しい生活の様子を知り、戦争の悲惨さや平和の尊さを深く実感することができました。

15:30～  
ディスカッション

◆ディスカッション～沖縄在住者との対話から平和を考える～

沖縄在住者との対話を通じて平和について考えるプログラムを実施しました。沖縄訪問で訪れた場所の振り返りや、戦争の悲惨さ、平和の大切さについてグループごとテーマを決めて話し合い、発表をしました。



18:00～  
サムズアンカー  
イン

◆夕食



3st  
day

8月7日(木)

沖縄→小田原

9:15~

南風原文化センター・沖縄陸軍病院南風原壕跡

◆南風原文化センター・沖縄陸軍病院南風原壕跡見学

戦時下の医療体制や看護にあたった人々の苦労を伝える資料や展示を見学し、戦争がもたらした過酷な状況を実感しました。

陸軍病院壕での看護に動員された女学生たちが、近くの集落で作られた食事や水を、アメリカ軍の砲弾をかくぐって壕まで運んだ「飯上げの道」も通り、当時の過酷さを体験しました。実際に陸軍病院壕跡を見学することで、暗く狭い空間の中で必死に命を救おうとした人々の姿を思い浮かべ、命の尊さと平和の大切さを改めて感じました。



15:00~

那覇空港発

◆那覇空港発



◆小田原駅で解散式



沖縄を訪れ、戦争の恐ろしさや平和の大切さを改めて感じた派遣生。3日間の行程を終え、一路小田原へ。

## 第1回・第2回事後学習

### 第1回事後学習

◎日時：令和7年8月16日（土）9時～正午 場所：市役所大会議室

### 第2回事後学習

◎日時：令和7年8月23日（土）9時～正午 場所：市役所大会議室

#### <第1回事後学習>

第1回事後学習では、2泊3日で実施した沖縄派遣事業の振り返りを行いました。生徒たちは、現地で見学した施設や平和学習を思い出しながら、戦争の悲惨さや平和の尊さについて改めて考えました。グループごとに、「自分たちにとっての平和とは何か」「沖縄で学んだことをどのように伝えたいか」について活発に意見を出し合い、互いの意見を共有しました。



また、11月の成果報告会に向けて、学んだことを分かりやすく発表するためのパワーポイントづくりにも取り組みました。どの写真を使うか相談しながら、派遣事業当日の写真を楽しそうに選ぶ姿や、スライドの構成を工夫して話し合う真剣な表情が見られました。生徒たちは、グループで協力しながら、自分たちの言葉で平和への思いを伝えようと一生懸命に取り組んでいました。

#### <第2回事後学習>



11月に開催予定の成果報告会に向けて、第2回事後学習では、グループごとに発表内容を固め、スライドの作成や発表練習を行いました。生徒たちは、8月に行った沖縄派遣で見学した施設や現地を感じたことを振り返りながら、「自分たちにとっての平和とは何か」「学んだことをどう伝えたいか」について活発に意見を出し合っていました。

グループごとに役割分担をしながら、伝えたい内容を整理し、写真や資料を効果的に使ったスライドづくりに真剣に取り組む姿が見られました。

発表練習では、発表の順番や話し方、聞く人に伝わりやすい表現を工夫しながら、お互いに意見を出し合い、より良い発表を目指して協力していました。発表後には、第1回事前学習で講話をくださった井上弘先生から、発表内容の総評も受け、今回の学習を通して、生徒たちは戦争の悲惨さや平和の尊さを改めて考えるとともに、自分の言葉でそれを伝える力を育てていきました。

# 成果報告会

◎日時：令和7年11月8日（土）13時～14時30分

◎場所：市役所大会議室

13:00～  
開会

◆市長あいさつ



成果報告会の前には、市長より挨拶を行いました。市長からは、「生徒たちが沖縄での学びを通して、どのような心境の変化があったのか」「今回の経験が、皆さんの人生における一つの原点となってほしい」「ぜひ周りの人たちに学んだことを積極的に発信してほしい」との言葉が伝えられ、生徒たちに発表に向けたエールが送られました。

◆生徒代表あいさつ

生徒代表として酒匂中学校の大野幸咲さんがあいさつを行いました。市の代表として参加した事前学習・沖縄訪問・事後学習を通して得た学びや感じたことについて、これから班ごとに成果を発表していく意気込みを述べました。



13:15～  
発表

◆A班発表 「命どう宝」

『命どう宝(命こそ宝)』という言葉大切に、戦争を学ぶことの大切さを伝えていきたい！



◆B班発表 「平和を大切に～もっと早く知りたかった沖縄地上戦の事実～」



戦争について学ぶ中で、今の“普通の生活”のありがたさを実感し、この平和を大切にしていきたい！

◆C班発表 「今じゃ経験できないことや、考えられないことを伝えていきたい！」

戦争を忘れないことも大事だが、戦争を“深く知ること”がより重要だと感じた！



◆D班発表 「平和な世界にしていく、続けていくには何が大切か。」



今ある当たり前を大切に、過去に起きたことを忘れずに向き合っていきたい！

戦後80年事業中学生沖縄派遣事業

成果発表 **A班** のテーマ

## 「命どう宝」

1

テーマの理由「命どう宝」意味は「命こそ宝」


- ◆戦争で多くの方が亡くなって、命の尊さを感じたから
- ◆私たちが今を生きるときも、「命どう宝」の意識をもって生きていきたいと思ったから

A班メンバー紹介	① 橘	② 横北	③ 泉	④ 平塚中等	⑤ 瀬戸
① 学校名	① 橘	② 高橋あゆ佳	③ 新谷俊二	④ 長山心美	⑤ 武井優那
② 氏名	② 鈴木興旺康	③ 戦後65年	④ 戦後67年	⑤ 戦後66年	⑥ 戦後66年
③ 生まれ年	④ 戦後65年	⑤ 戦後66年	⑥ 戦後67年	⑦ 戦後66年	⑧ 戦後66年
④ 星産	⑦ 獅子産	⑧ 天祥産	⑨ 水原産	⑩ 豊産	⑪ 山芋産

2

沖縄派遣学習で学んだこと



- ◆平和とは、どんなことを学んだ
- ◆自分のひいおばあちゃん、ひいおじいちゃんに当たる8人が戦争中に生き残ったから今の私たちが生きているということ
- ◆沖縄戦が最後の戦争だったこと、そしてたくさんの方が亡くなったこと
- ◆日本兵が一丸になって戦っていると思っていたが、本当は沖縄の人々のことをスパッ言っていたりしていたこと
- ◆自分達と同じぐらいの子達が、今だと考えられないような仕事をしてたこと



3

記憶に残った場所①「アブチラガマ」

- ◆自分で動けなかつたりする人は見捨てられていたと知って複雑な気持ちになった
- ◆思っていたより歩きづらくて、中が真っ暗だった
- ◆本当に人がいたと思うと戦争をリアルに感じた
- ◆外が見えると、誰からも見えないということだから、外が怖かったということが分かった
- ◆もう助からないと判断された患者さんは、真っ暗な場所に入れられてしまっていたこと
- ◆内部を見て、当時の病院の様子や避難してきた人の暮らしを知って、助け合いをしていたことがすごかった
- ◆意外と広くて驚いたが、それ以上に暗くて周りが見えずに驚いた

4

記憶に残った場所②「平和祈念公園」


- ◆平和の礎を見て、どれだけ多くの方が亡くなったかがわかった
- ◆たくさんの方の名前が書いてあって、この戦争で死んでしまった人の数、とても多かったことが分かった
- ◆名前がたくさん刻まれていてリアルに感じられた
- ◆国のために命を預けていたこと
- ◆台湾や韓国も参加していたのに平和の礎には記録できていない人が多量いること
- ◆平和の火は、平和を沖縄から世界へ届けていくという意味があること



5

記憶に残った場所③「ひめゆりの塔」


- ◆死を覚悟したお別れ会が行われていた
- ◆ひめゆり学徒隊の人の遺影がたくさんあって同年代の人の生き様について学んだ
- ◆ひめゆり学徒隊の心情や様子がわかった
- ◆友達が亡くなってしまい、生き残った人も生き残って良かったと思えなかったこと
- ◆自分が生き残ったら、友達のことを靖国神社に祀られないことを悔やんだこと
- ◆自分だったら生き残って良かったと思ってしまう



6

現地ディスカッションでの学び


- ◆命どう宝が大切
- ◆命どう宝がいま一を重んじて生活する
- ◆アブチラガマで亡くなってしまった人を思うのが大切
- ◆アブチラガマを怖いと思わず、当時の人にとってはそこが救いだったと考えるのが大切
- ◆ひめゆり学徒隊での移動の時に動けない病人に導入のミルクを飲ませたこと
- ◆ひめゆり学徒隊の方が生き残ったけど嬉しくなかった感情があること



7

事業参加前からの考え方の変化


- ◆たくさんの方が亡くなったことを実際に感じて、命の尊さを知り、日常を大切にしようと思った
- ◆実際に戦争があった場所を訪れ、経験して戦争を身近に感じた
- ◆自分がインターネットで見て思っていたことよりも、何倍も大げさなことを知った
- ◆沖縄に行く前は兵隊だけが戦っていると思っていたけど、沖縄戦は一般の人も多く亡くなっていることを知った
- ◆日本兵も沖縄の人々も全員が一丸になって戦っていると思っていたが、実際は赤ちゃん泣かないように敵を持って見張った人、スパイだと疑って殺してしまったりしたことを学んだ



8

今後の生活に活かせること

- ◆命を大切にする(命どう宝)
- ◆色々な人に伝える
- ◆知っただけではなく、周りの人に伝えていくこと
- ◆ご飯や水を十分に得られなかったから残さず食べられるありがたみを知って生活していくこと
- ◆ご飯を食べられるありがたみを知ることによって、食べ残しを減らす




9

まとめ「私たち班の平和宣言！」

- ◆当たり前なことを当たり前と思わず、より多くの方が戦争について向き合えるようにしたい
- ◆お互いに尊重すること
- ◆友達や家族など、身近な人を大切にすること
- ◆自分だけのことを考えるのではなく、周りを見て相手のことを思う気持ちをいつでも持つようにしたい
- ◆戦争を学ぶことによって、戦争の怖さや残酷さを知ることができたので、戦争を学ぶことの大切さを色々な人に伝える
- ◆沖縄で学んだことを今学んでいる英語を使って外国の方々とも意見の交流をしてより良い平和を創る

**私たち班の平和宣言！「命どう宝」**



10

# 【B班】発表スライド

## 中学生沖縄派遣事業 成果発表 B班

平和を大切に  
～もっと早く知りたかった沖縄地上戦の事実～

## 自己紹介・班のテーマについて

- ▶ 門間まいな (稲宮) MONMA MAINA
- ▶ 奥野和輝 (サレジオ) OKUNO KAZUKI
- ▶ 鈴木七海 (白鷺) SUZUKI NANAMI
- ▶ 大水 后 (城山) OOMZU KOU
- ▶ 白方怜奈 (白鷺) SHIRAKATA REINA
- ▶ 大野満月 (橘) OONO MITSUKI

### 班のテーマは！

▶ 当時の人たちはどんな思いだったのか？どんな生活だったのか？どんな思いで戦争を生き残ったのか？当時の状況を自分の目で見て調べ、地上戦に巻き込まれた沖縄の人たちの生活や思いについて学びたい。

## 事前学習で学んだこと・調べたこと

### 事前学習で学んだこと！

- ▶ 80年前の戦争では、1944年10月の空襲から半年後の1945年4月1日にアメリカ軍が沖縄本島に上陸。戦艦大砲を巻き込んだ戦艦が行われ、組織的な戦艦が行われたとされ6月23日まで約3か月間、沖縄本土において激しい空襲、艦砲射撃、地上戦が行われ多くの死傷者を出した。
- ▶ その数は私たちの住む小田原市の人口を超えるものだった。想像を超える地上戦の悲惨さだった。
- ▶ **沖縄でもっと知ってほしいこと！**
- ▶ ひめゆり平和祈念資料館...青春を戦争につぶされた彼女たちの思いと、生徒隊の移動ルートも知りたい！
- ▶ アブチラガマ...美しいガマのなかで何を希望に生きていたのか、集団自決に追い込まれた人たちが最終に何を思ったのか知りたい！
- ▶ 南風原病院...病院として治療するにふさわしい場所なのか、限られた医療資源で膨大な負傷兵の治療がどう行われたのかわりたい！

### 記憶に残った場所

## ひめゆりの塔・ひめゆり平和祈念資料館



多くの犠牲者を出したガマの上に建てられた慰霊碑

- ▶ 資料館入口にある等身大に引き伸ばされた慰霊塔の塔子式の塔。上層部、戦争に巻き込まれ命を失った人々の顔を思い浮かべながら、笑顔が印象に残る。
- ▶ 自分と同じ年の子どもたちが被害にあっている。
- ▶ ガマから出て降伏することは恥だと言われ、助かった人達は生き残ることを今でも悔やんでいる、それが地上戦の現実。
- ▶ 生徒隊解散の最後のお別れ会が、楽しい思い出だったが、次の日、多くの仲間が帰郷でなくなってしまったことは悲しい。

### 記憶に残った場所

## 糸数アブチラガマ (隆起サンゴ礁の自然洞窟)



ヘルメット！軍手！ライト！を持って地下のガマへ

- ▶ 全長270メートルの地下のガマ (自然洞窟) の中は真っ暗闇で、目を開けているのが怖い感じが分からなくなってしまう。
- ▶ ガマでは、職いだけでなく足場も不安定で移動するだけでも大変な状況。不衛生な環境で看護していた女生徒はすごい。
- ▶ 今はライトで照らされるが、当時は暗闇に加えてうめき声や重傷がしきり響いて、400名の負傷兵が運び込まれた。
- ▶ 助からない見込みのひと、一カ所にまとめる等、人間味が全く感じられない。
- ▶ 最後に出口の聖霊峰にお水をささげご冥福をお祈りさせていただきました。

### 記憶に残った場所

## 沖縄陸軍病院南風原病院壕 (約30の人工の壕)



20号壕の前で、ここもヘルメット、ライトが必要

- ▶ 飯上げの連の急な坂を、爆撃を避けて15キロの壕を避けることは大変なこと、死と隣り合わせ。
- ▶ 多くの患者が便が溜まるまま残っていたり、重症患者は看護力入りミルコで目立を確保され、とても悲しい。
- ▶ ガマと違って、壕の中は、床の幅は1.8メートルと狭くベトがあると歩けないし、大人では最後の人の足や頭が当たってしまう。
- ▶ 自分がある中にいたら1日も、もたない。
- ▶ 壕では、体を休めることはできない。日々、体力が無くなっていったらう。

## 現地で聞いた話・ディスカッションでの学び



平和に感謝！平和を大切に！

- ▶ 当たり前でできていることが戦争中ではできなかった。今が平和だと実感した。
- ▶ 当時と比べ色々なことができる、服を遊ぶ、ご飯を食べることができ、できる今は平和。
- ▶ 平和には人それぞれの感じ方があり、これという答えも人それぞれで色々ある。
- ▶ 平和って何？と聞かれてすぐに答えられなかったけど、何事もなく生活ができることだとと思う。簡単なことでもない戦争。
- ▶ 何事もなく送れる日々を平和だから実現していること感謝する。平和を壊してはいけない。

## 事業参加前からの考え方の変化



食生活も変化！今日も沖縄そば〜

- ▶ ここが私たちが特に考えを変えたのが、戦争はいけないものだと思っていたが、さらに深く戦争の現実を知りそう感じた。
- ▶ 日本は被害者だと思っていたが、強制労働等、祖国への加害者でもあることを知った。
- ▶ 数字でしか見たことのない沖縄戦が、名前や遺影を見て悲惨さがさらにわかった。
- ▶ 沖縄戦でなくなった人の人数だけでなく、それ以上に人生が壊されたことを実感できた。
- ▶ 戦争という原爆で多くの人が亡くなったと想像するが、沖縄では地上戦で多くの市民が巻き込まれ、今もその傷跡が残っていて、戦争の悲惨さを目の当たりにし、戦争を伝えるは伝説と思いつけるのではなく、沖縄を伝えるようになりました。

## 今後の生活に活かせること

- ▶ 平和だからできる、一日一日に感謝し、一日を楽しんで、噛みしめて過ごしたい。
- ▶ 今は、なんでもできる、できることに感謝したい。これからは、やりたいことをやれること、そしてそれとことんやる。
- ▶ 自分たちが今できていることは、当時は何もできなかった。
- ▶ やりたいこと、そして勉強もでき、ふつうに生活もできる。今私たちは、そのありがたさを感じる。
- ▶ 現地を見て初めて分かったこと、本やインターネットだけでは感じることができない体験を、友達や周りの人に語り伝えたい。
- ▶ 資料や数字だけではピンとこない、沖縄は観光目的で行くことがあるが、こういった戦争のあとがあること、戦争の事実を発信していきたい。などのたくさんの意見が聞かれました。

## まとめ「私たち班の平和宣言！」

- ▶ ふつうに生活ができていることが幸せなんだ！
- ▶ 好きなことができる幸せを感じて日々を過ごそう！色々なことに感謝して、何でもいなくても感謝を忘れずに、周りにしっかりと感謝しよう。感謝の気持ちもしっかり伝えよう！
- ▶ 今あることがいつまでもできるとは限らない、ありえない状況もいつ起こるかわからない。戦後、沖縄の戦跡を訪れたり、仲間が集まってそれを学習できること自体も平和で幸せであること、今が平和な状況であるということ、あまりみんなが実感できていない、そういった平和な状況に私たちが今いることを伝え、広めていきたい。
- ▶ 戦争がどれだけのひとを苦しめたか、今も苦しめているのか、それをしっかりと理解し、戦争を起こしてはいけないということをはりどりとりが考え、伝えていくことが大切である。
- ▶ 戦争を起こさない、平和を大切にするためには、色々な意見を聞いて、お互いを認めあい、支えあうことが大事。平和な世の中で未来がある私たちがだからこそ、小さなことを積み重ね平和を築いていきたい。

## まとめ「私たち班の平和宣言！」

- ▶ 沖縄戦で多くの方が戦争という悲劇に巻き込まれ、多くの方が亡くなり、そして80歳をこえる生き延びた人たちは、なほお苦しんでいます。
- ▶ 今回、沖縄で罪のない人たちが戦争に巻き込まれていくという事実を目の当たりにし、現地で多くのことを学びましたが、国のためや家族のために戦った多くの兵士や、若い人たちが犠牲を落とされたこと、遠い海外で日本のことを思っていた人たちのことも忘れてはなりません。
- ▶ 戦後80年目の夏に私たちが沖縄で学んだことは、決して忘れません。そして、みんなにこの思いを伝えていきたい。

今日ふつうに生活できていることを実感し、いつまでも、この平和を大切に！

**今じゃ経験できないことや  
考えられないことを伝えていきたい！**

 **CCLレモン班**

**※現地に行って学びたかったこと！※**

**※訪れる施設について事前調査！※**

ひめゆりの塔・・・ひめゆり学徒隊の生徒が何していたか学びたい！  
平和祈念公園・・・沖縄戦で亡くなった人たち、昔の人の名前や数を知りたい！  
対馬丸記念館・・・対馬丸に乗った子供たちがどんな気持ちだったのか！  
アブチラガマ・・・壕の内部がどうなっているのか、その中での生活について詳しく知りたい！  
南風原文化センター・・・人々の暮らしについて詳しく知りたい！

3

**自己紹介・班のテーマについて**

▶ 今と戦争当時の違いを比べて今の平和さを伝えたい  
▶ 実際に見学して、当時の人の気持ちを理解して周りの人に伝えていきたい！

伊藤陽哉	千代中学校	野球部	冷やし中華
木下呼春	城北中学校	バスケット部	オムライス
保田カスミ千代子	鴨宮中学校	陸上部	ステーキ
仲内優姫	泉中学校	美術部	イチゴ
渡辺優葉	城山中学校	バドミントン部	ラーメン
大野幸咲	酒匂中学校	吹奏楽部	お父さんが作る鳥皮
田口大翔	城南中学校	サッカー部	寿司

2

**※平和祈念資料館※**

**見学したこと**

- 慰霊碑では亡くなった人の名前がたくさんあった
- 資料館では鏡子で通っている様子の写真があった
- 遊樂場の生々しい写真があった
- 赤ちゃんが泣いてたら口を押さえて、泣き止ませた

**学んだこと**

- 赤ちゃんの存在が当時の人にとって邪魔な存在であった
- アメリカ軍が焼き殺されたこと、収容所の写真等記録してたのに驚いた
- 何万人なくなると言われても実感ないけど、慰霊碑みたら実感できた
- アメリカ軍はどんな気持ちで写真を撮ったのかを疑問に思った
- 1人の人間として、尊しい気持ちになったので、どこか尊しい存在に感じていた戦争を、実感できる展示だった

5

**※アブチラガマ※**

**見学したこと**

- 当時の骨や道具がなかった
- 想像以上に真っ暗だった（電気消して当時の暗さを体験した。）
- 井戸や窓があったりした
- 燻風をせき止める壁があった

**感じたこと・学んだこと**

- 昔はもっと悲惨な状況だったのではないかと想像しやすかった（外は安全じゃない）
- 天井から水道などが落ちてきている環境で、濡っていて、火が燃えにくい環境だった（燃え広がらない）

4

**南風原文化センター※**

**見学したこと**

- 負傷兵のベッドに寝る体験をした
- 実際に銃撃戦が行われた壕があってびっくりした
- 壕の再現
- 壕の中で手術していた
- 麻酔は最初は使ってたけど、どんどん麻酔不足になって、麻酔なしで手術していた
- 麻酔がないから、ひめゆり学徒隊が押さえつけて手術をしていた
- ひめゆり学徒隊は、食料の供給、治療の手伝い、最終的には、背負方を起すといった場所もある
- 実際の注射器とか麻酔の入れ物とかがさびびって残っていた

**学んだこと**

- あとで迎えがくると言われてたけど、青酸カリ入りミルクを配られて多くの方が殺されたのが残念
- 衛生的な環境ではなく、不衛生な環境で治療していたのがびっくりした
- 今みたいな医療技術がない中で、限られた物質で治療していたのがすごい

6

**※証言映像※**

**見学したこと**

- ひめゆり学徒隊に入っていた人の証言映像
- 解散命令出されたけど、ガマにいた人たちが爆弾投げられて、死んでしまった人もいる

**学んだこと**

- 毎日お国のためによく働いていた
- 食料の配給が少ない中、1日にテニスボールくらいのおにぎりだったのが、ピンポン玉くらいのおにぎりで生きていたのがすごい
- 空襲が来たときなどに他人の家から盗んだりとかしていたのか
- 戦争中は、外の光は危ないものと認識されて恐怖だったこと

7

**※ディスカッションでの学び※**

**今の日本は平和かな？**

★班の意見★  
今は、いじめだったり、物価が高かったり生活が楽くないと思うから、日本は平和じゃないと思う！

★班の解決策★  
・食に対する意識が低いから、意識を高めていく必要があると思う（例：フードロス）  
・お互いのコミュニケーションを大切に、一人一人の意思や想いを分かち合うこと（例：けんか）  
・話し合ったり、私たちが思う人との向き合い方を発信していくことが大切！！

8

**※事業参加前からの考え方の変化※**

★忘れられないことも大事だけど、実際にあったことを深く知るとする気持ちが大変なことを学んだ。（大野 幸咲、仲内 優姫）

★アブチラガマの存在を知らなかったけど、他の館での戦争と共通する部分があるんだなと思ったり、今は、平和ともいえるけど、戦争が起こってからは、平和ともいえない。（保田 千代子）

★ひめゆり学徒隊のこと、戦争については他人の事だったけど、参加してから、自分もその時代にいたんだなと思うようになった。（木下 呼春）

★リゾート地、楽しむ場所だと思ってたけど、日本でも唯一地上戦が行われた場所だということを知ると考えられるようになった。（渡辺 優葉）

★思ってただけじゃダメだな、もっと自分ができることを考えられるようになった。（伊藤 陽哉）

★実際に現地を訪れたことで、教科書だけではわからない細かい情報まで学べた。（伊藤 陽哉）

9

**※今後の生活に活かしていきたいこと！※**


★食べ物を大切にしたい！  
★周りの人に戦争の恐ろしさ、平和は自分たちで創っていくことを伝えていきたい（家族・友達）！  
★戦争のことをもっと学んで、戦争への知識を深めていきたい！  
★友達と喧嘩しないために、人の話を聞いてあげる姿勢を大切にしていきたい

10

**★「CCLレモン班の平和宣言！」★**

- ・戦争を忘れないことも大事だけど、戦争を深く知ることが大切！！
- ・実際の戦争体験を聞いて、実際に経験した人しか分からない気持ちを学びたい！！
- ・もっと戦争について学んで、たくさんの人に伝えていきたい！！
- ・昔の先祖たちが戦争を生き延びたからこそ、今みんなと勉強できることが奇蹟であることを伝えたい！！

# 【D班】発表スライド



中学生沖縄派遣事業  
成果発表 D班  
「平和な世界にしていく、  
続けていくには何が大切か。」

### ◆グループメンバー

- ▶ 坂本美来 橋中2年  
「長崎でトラウマになったから克服するために！」
- ▶ 高田夢奈 酒匂中2年  
「戦争について学んでみたかったから。」
- ▶ 石塚詩 千代中2年  
「身近にある平和について深く考えるため！」
- ▶ 鬼澤心々実 城南中2年  
「昔から母が沖縄戦について話してくれたから。」
- ▶ 瀬戸直子 1年 白山中  
「実際に戦争のあった場所に行くことで新たに学ぶことがあると思ったから。」
- ▶ 高橋果希 1年 日大三島中  
「戦争の悲惨さについて深く学びたかったから。」

2

### ◆班のテーマについて

沖縄派遣事業の目的・概要（期間、訪問地、活動内容）

- ▶ 目的：「平和について」
- ▶ 期間：8月5日(火)～7日(木) 2泊3日
- ▶ 訪問地：ひめゆりの塔（資料館含む）、平和祈念公園、対馬丸記念館、首里城、アプチラガマ、南風原文化センター、沖縄陸軍病院南風原壕跡
- ▶ 活動内容：講話、資料館内見学、ディスカッション

沖縄を訪問し、戦争の悲惨さやいのちの大切さを学び、同世代との交流やディスカッションを通じ、「平和を創る」という視点で戦争を繰り返さないためにできることを考え、今後の生活に生かすとともに、友人や次の世代へ継承していく。

3

### ◆事前学習で学んだこと・調べたこと

沖縄の歴史・当時イメージしていたこと、想像していたこと

- ▶ 「死んでたまるか！」の考えがほとんど無かったこと。大体が死を望むという...
- ▶ 戦争（攻撃）に巻き込まれて亡くなる人がほとんどだと考えていた。でも実際には集団自決や自決命令で自ら命を落とす人が多かった。
- ▶ 沖縄戦を繰り返していた当時、米軍につかまり、命を守ろうとするのではなく、そもそも米軍につかまることが良しとされていなかったことを知った。

4

### ◆現地で記憶に残った場所①ひめゆりの塔

- ▶ 見学したこと
  - ▶ ひめゆり学徒隊の方の証言映像や塚の実物大模型などを通じて、ひめゆり学徒隊が体験した沖縄戦の実相が伝えられていた。
  - ▶ 実際に使われていた制服や手紙、写真が展示されていた。
  - ▶ ひめゆりの塔は多くの女学生、先生が生かなくなった場所。学校全体の犠牲者 227名が列銘されている。
- ▶ 学んだこと
  - ▶ まだ若かった女の子たちが戦争の中で一生懸命にケガのお世話をしたりして、小さな希望を持っていたことが分かった。しかし、その希望も戦争によって奪われたことも分かった。
  - ▶ ひめゆり学徒隊の人たちの仕事内容、どんな思いだったか、行ってきただけのこと、解散命令によって犠牲者がたくさん出たことなどを学ぶことができた。
  - ▶ 備前館が変わった（「戦死が名譽なこと」などの考えを知った）
  - ▶ ひめゆり学徒隊がいた陸軍病院はかたひびく状態。戦時で活動は命がけだった。今では考えられないような環境の中で重体の兵士たちの看護していたことが分かった。
  - ▶ 命を落としてしまったひめゆり学徒隊の恩力を知ることができた。そして生き残った方々のご恩力を資料館から広く知ることができた。

5

### ◆現地で記憶に残った場所②アプチラガマ

- ▶ 見学したこと・感じ取ったこと
  - ▶ 劣悪な環境だった（暗さ、汚さ）。
  - ▶ 適切な治療を受けられていなかった。
  - ▶ 暗闇でその時代を想像して怖くなった。
  - ▶ 戦争中に多くの人が避難した洞窟中はひんやりして、不思議な静けさがあった。
  - ▶ 小さな子どもや家族の声、負傷者の声が響いていた。
  - ▶ 暗さに驚いた。
- ▶ 学んだこと
  - ▶ 実際に沖縄戦の避難壕として使われていた場所に行くことで当時の方々はどんな思いが強くあったのか深く考えることができた。
  - ▶ 暗い洞窟の中でたくさんの方が不安や恐怖の中、必死に生き抜こうとしていた。
  - ▶ 当時は生きたくても生きられない。
  - ▶ 暗い洞窟の中で手術や看病を行っていたと考えるとどれだけ過酷だったかがよく分かった。



6

### ◆現地で記憶に残った場所③南風原

- ▶ 見学したこと・知ったこと
  - ▶ 塚とガマの違いを知った（塚は人口、ガマが自然のもの）。
  - ▶ 攻撃の激しさ、塚の様子
  - ▶ 弾が貫通した塚、爆弾の破片で破れた着物から分かった。
  - ▶ 南風原文化センターで展示されていた沖縄陸軍病院壕の再現
- ▶ 学んだこと
  - ▶ 戦後沖縄がどのように歩んできたか。
  - ▶ 沖縄戦の動き・流れを広く理解できた。
  - ▶ 「私だったら...」と考えることができた。
  - ▶ 展示物のプロクから当時を想像できてすごく心に残った。

7

### ◆現地で聞いた話・ディスカッションでの学び

- ▶ ディスカッションでお話してくださった方から「戦争では、自分が被害者にも加害者にもなる。」という言葉を聞いて、戦争をするだけでその事実が成り立ってしまうのだと知った。
- ▶ 「米軍基地についてどう思う？」考えたことがなかった！個人的には和解したのに嫌がられるのは悲しい。
- ▶ 私達は「命は重く、尊きもの」と教わってきたが、当時は「お国の為に死ぬのが国民としてのほごり」という考えが一般的なことに驚いた。時代が少し変わるだけで考え方がこうも違うのかと思った。でも私達が今そう考えられているのは、きっと戦争を経験した人たちがいるからなのだとおもった。

8

### ◆事業参加前からの考え方の変化

- ▶ 今までの私は、現在も戦争している国に対して「大変だなぁ」と思い、関係のないことだと考えていた。しかし、沖縄派遣を通じて、現在も戦争が続いている国、過去に起きた戦争にしっかりと向き合い、今の平和について考えることが大切だということの変化があった。
- ▶ 今までは戦争は遠い国で起きて自分には関係のないことだと思っていたが、実際に学んでみると今の私たちの平和な生活は、過去に戦争があったからだと「関係ない」なんて決して言えないと思った。
- ▶ 平和を続けていくには？の答えがハッキリしていなかったが今はちゃんと「戦争の恐ろしさを伝えていくこと」と答える。
- ▶ 「平和」について身近に感じたことがなかったけど、今回の事業に参加することで、「平和」を自分たちで守っていくことの大切さ、必要さを感じるようになった。
- ▶ 沖縄戦のことについて知ったとき、多くの一般の人々や、子どもたちまで巻き込まれていて、犠牲になっていて、ひめゆり学徒隊のように、自分と同じくらいの年齢の女の子たちが、家族と離れ、つらい思いをしながら人の看護をしていた事を知り、私は家族や友達と笑いあっていたり毎日ご飯を食べたり平和に過ごしているのが当たり前だと思っていたけど、沖縄戦を体験した人たちは、普通に過ごすことがどれだけ幸せかを身をもって感じていたと思う。なので平和でいられることのありがたさを知ろうと思いました。

9


### ◆今後の生活に活かせること

- ▶ 将来の夢が平和なので、平和のために何をしたらいいか、ちょっとでも分かるようになった。
- ▶ 戦争の被害にあってる国への募金を積極的にする。
- ▶ 命を大切にしながら様々なことに感謝する。多様な人々と交流をして柔軟な考え方を持つ
- ▶ 当たり前前かが当たり前じゃないという気持ちを忘れない。感謝の気持ちを持って過ごす。
- ▶ 周りの人と思いやりや助け合いをして、平和を維持していく。

10

### ◆まとめ「私たち班の平和宣言！」

- ▶ 学んだことの総括
  - ▶ 私達が沖縄派遣事業を経て学んだことをまとめました。
  - ▶ 1つ目は「戦争を知る、忘れない、考える」です。
  - ▶ 2つ目は「過去に起こった出来事にしっかりと目を向ける」とまとめました。
- ▶ 私たちからのメッセージ
  - ▶ 戦争を知る＆忘れない＆考える
  - ▶ 過去に起こった出来事にしっかりと目を向ける



今ある当たり前が成り立っているのは何から来ているのか考える。

11

# A班 派遣報告

戦後80年事業中学生沖縄派遣事業

成果発表 **A班** のテーマ

## 「命どう宝」



## 橘中学校 3年 鈴木 美旺菜

### 【感じたこと・学んだこと】

私が沖縄派遣に参加し一番印象に残っていることは、アブチラガマでの体験のことです。アブチラガマは沖縄での戦争の時に、避難所や病院として使われていた場所でした。洞窟なのでとても暗いうえに、足の踏み場もゴツゴツとしていて、とても歩きづらかったです。戦争中のそこの生活を教えてもらいました。

ガマの中では体も洗えずバイ菌が入ってしまったり、虫も沢山湧いたりしてとても不潔でした。もちろん今のような綺麗なトイレもないので、入れ物に用を足し、その入れ物がいっぱいになったら、アブチラガマに派遣された学生が捨てに行っていたそうです。足が動かなく自分で歩けない患者は、尿をするのを学生が手伝ったり、便が出た時にはおしりを拭いたりもしていました。学生は私達と同じくらいの年代の女の子で、私達がやらない大変な仕事をしていたことを聞き、とても驚きました。戦争中は食べ物や薬品もなくなっていく一方でした。

最初はテニスボールくらいだったおにぎりがピンポン玉くらいの大きさになり、その量が1日分の食べ物だったそうです。麻酔薬が無くなった時には、負傷した兵士の手術をする時は、暴れている人を学生が押さえて、麻酔をしないで足や手を切断していました。そして解散令が出され、学生や看護師、医者、自分で歩ける兵士はガマから出て行きましたが、足が動かない兵士などは見捨てられ置いていかれてしまいました。

しかし、ガマから出て行かずにいる数名の市民がいて、その兵士達を見つけました。市民には1日1カップのお米が配られ、自分達もそれを食べ、生きるのに必死な中、負傷した人におかゆにしてあげた人もいたそうです。そして生き残った人が数人いました。

私がこの話を聞いて、思いやりの気持ちや協力することが大切だと思いました。なぜならもし一人一人が自分のことしか考えないで生活していたら、もっと大勢の人が死んでしまったと思います。市民の人と兵士で協力し合い、ガマの中で生活したからこそ助かった命だと思いました。

私は今回の沖縄派遣で、戦争は一つも良いことが無く怖いことを、色々な方のお話や実際に現地を見て学びました。戦争が起こると敵味方関係なく沢山の人が亡くなったり、亡くなった家族が悲しい思いをしたりしました。また、一生身体が不自由な生活を強いられたり、食べ物が無くなったりした歴史があったことも学びました。

ただ、同時に人との関わりや協力することの大切さも学びました。自分さえ良いといった考えはもたずに、周りをみて自分が出来ることをしていくことによって、私達は生きることやその先の幸せを得られるのだと考えます。自分が大変な時に周りを助けるのは、本当に大変だと思います。だからこそ私は、自分の温かい心をいつももてるようにしたいです。

そして、どんな理由があっても戦争はしてはいけないと強く思いました。このような機会を頂き、どうもありがとうございました。

### 【私の平和宣言】～思いやりの気持ちを持つ～

今回の沖縄派遣で学んできたことを、家族や友達に話し広め、私達全員が今後絶対に戦争をしてはいけないという気持ちを共有することが大切だと思います。戦争が終わり80年が経ち、戦争を知らない人達が増えました。戦争の悲惨さが忘れ去られてしまい、再び戦争が起こらないように、私達は語り続けたいと思います。

最近アメリカの色々な政策が話題に上がっていて、世界中が不安定な状態になっています。日本で戦争が起こってしまうのではないのかと、不安になる時もありました。そういうニュースを見て、政治と戦争は深い関係があると思い、トップの人の考え方や外国との付き合い方で戦争は起きてしまうのだと感じました。そのトップの人を選んでいるのはその国の大人です。選挙に行って自分の意見を投票することが大切だと思うので、周りの大人に選挙の声掛けもしていきたいです。



## 城北中学校 2年 高橋 あゆ佳

### 【感じたこと・学んだこと】

沖縄の派遣事業を通して、戦争の現実とその残酷さを強く感じた。訪れたひめゆりの塔平和祈念公園、対馬丸記念館、アブチラガマ、そして南風原の沖縄陸軍病院跡。それぞれの場所で目にしたのや耳にした話は教科書だけでは想像できないほど生々しく、心に重くのしかかった。

ひめゆりの塔では、学徒隊として動員された少女たちの写真や遺品、手記が展示されていた。年齢も自分と近く、同じように日常や夢をもっていたはずなのに、戦争によって一瞬で奪われたことが、胸に刺さった。入口の笑顔の写真と、展示されていた言葉や写真との落差があまりにも大きく心が締め付けられた。

平和祈念公園では、石碑に刻まれた多くの名前を見た。その中には、私の祖父の叔父の名前も刻まれていた。自分と血のつながりのある人がここで命を落としたという事実は亡くなった人の人数や文章では伝わらない重さが伝わってきた。一人一人の名前にはその人の人生や家族があり静かな公園の景色の中に深い悲しみが流れているように感じた。

対馬丸記念館では、疎開のためにのっていた船が撃沈され多くの子供がなくなった事実を知った。安全な場所への道が、一瞬で地獄のような状況に変わることは想像を超えていた。また疎開した目的は供たちを避難させるためではなく、これから始まる長期戦にむけての軍の食料の確保や次なる隊員の育成、足手まといになる子どもを別の場所に移すためであるということに驚き印象に残った。

アブチラガマや南風原の陸軍病院跡では暗く湿った空気、狭い通路、壁に残る傷や跡がそこにいた人々の苦しみを物語っていた。薬も食料も足りず、うめき声や、泣き声が響いていたであろう状況を想像すると背筋が冷たくなった。特にアブチラガマを見学して残された住民の方々と、動けなくなった負傷兵とが協力して生き延びた話を聞くと今も沖縄で大切にされている言葉の「命どう宝」「ゆいまーる」などの意味をよく理解することができた。

この派遣事業で得たものは、戦争がただの歴史上の出来事ではなく、現実としての人々の生活や命を奪ったという感覚だ。資料や映像だけでは届かない「場の雰囲気」や「残された傷跡」から当時の人々の恐怖や苦しみが少しだけわかった気がした。

### 【私の平和宣言】～自由に意志を持てる未来へ～

沖縄で見た戦争の傷跡や、そこで暮らしていた人々の証言から、平和は当たり前ではなく、多くの犠牲の上に成り立っているものだと実感した。

自分にできることは、今回学んだことや感じた思いを家族や友人に伝えることだと思う。話すことで知らなかった人が関心を持ち、戦争や平和について考えるきっかけになる。また、私は英語を話せるよう日々勉強している。将来、世界の人々直接意見を交わし、異なる立場や考え方を理解することは、争いを減らす一歩になると考えている。日常の中で歴史や世界の出来事に関心を持ち続け、過去の悲劇を忘れないようにし、小さな行動を積み重ねていきたい。



## 酒匂中学校 2年 武井 優那

### 【感じたこと・学んだこと】

私が派遣事業で学んだこと、感じたことは戦争の悲惨さや残酷さ、平和の大切さや当時の人から受け継がれてきたものや理由、戦争を受けた当時や現代の人の思いなどです。

昔から残っているものや本物のような模型、細かい数などを見た、体験したことによって自分が事前学習などで考えたこと、思い描いた事とは比べものにならない悲惨さや残酷さを感じました。自分が想像していた弾(爆弾)とはサイズも重さも全然違ったし、防空壕やガマがあんなに暗いなんて思ってなかったし、今でも爆弾が見つかって犠牲者がでてるなんて知らなかったです。当時の様子をそのまま自分が体験できたかとなるとできないけど、調べ学習なんかより現地に行った方がよりリアルに感じ、少しだけ想像することもできました。

対馬丸記念館やひめゆり平和記念資料館では当時の人が制作に関わっていたり、どの資料館でも当時の人の物も多く展示されていたりして、どれも平和の大切さを学ばしてくれました。特に証言映像は当時の人の言葉で戦時の様子を教えてくれました。平和を訴え、今がどれほど幸せなのかを伝えてくれるような映像でした。また、対馬丸のランドセルのお話では押し入れに入れられたランドセルを取り出し、展示することに意味を感じました。埋葬したりするのではなく、大々的に展示することでその人が本当にいたという存在を証明するためだということも展示された意味の一つなのではないかと考えました。対馬丸だけでなく、資料館に遺影が多くあるのも同じ意味なのではないかと思いました。

私は派遣事業で主に以上のことを学び、感じました。現地の沖縄までいなくても、戦争の悲しさや平和の大切さは分かるけど沖縄でしか分からないことも多くあったし、より重く再認識できた気がします。沖縄の戦争に纏わる場所にたくさん行って、どの場所も沖縄の人が大切にしているんだなと感じました。戦争が良いことかは置いておいて、沖縄戦が起こってしまった事実を受け止めて隠すのではなく、いろいろな人に知ってもらい、次の世代へ繋げることや戦争で亡くなってしまった人を思うためのもの(こと)として沖縄戦から80年大切に守られてきたのだと感じました。

### 【私の平和宣言】～相手を尊重する～

私が平和のためにできることは、大切にすることです。沖縄の人が大切に守ってきた戦争のことをこれからも変わらず守り、大切にしていくことです。これは沖縄だけでなく、小田原でも同じようにできることだと思いました。

他にも、戦争のことを忘れないで受け継ぐことです。後世でも平和が続いていくため、戦争のことを忘れることなく当時を生き残った人から受け継がれてきたものをこれからもずっと受け継いでいくことが大切だと思います。そのため、私はより多くの人に学んだ事を伝えたいと思います。

また、戦争で亡くなってしまった方を思い、考えることが一番大切だと思います。その人たちのおかげで今を生きることができているのかもしれない、自分の先祖の人が戦争で亡くなってしまったかもしれないと考え、感謝することが大切だと思います。そのためにも、一人ひとりが戦争について考えられたら、いいなと思います。



### 【感じたこと・学んだこと】

私は、教科書だけでは分からない現地の空気を肌で感じ、より深く戦争について考えたいと思い、今回の事業に参加しました。これまで沖縄戦については、社会科や歴史の授業で学んだ範囲の知識しかなく、教科書の出来事を「事実」として知っているだけで、深く考える機会はほとんどありませんでした。

沖縄といえば青く澄んだ美しい海や、穏やかな南国の景色を思い浮かべます。しかし、戦争当時の沖縄は全く違っていました。現地で当時の写真や証言を目の当たりにして初めて知ったのは、敵の艦船が1500隻も押し寄せ、その光景が「黒い海」と呼ばれ恐れられていたことです。私の知る沖縄の海の色とは正反対で、その違いに大きな衝撃を受けました。

さらに、戦時中の生活は想像をはるかに超える厳しさでした。

「ご飯は一日に一口大のおにぎり一個だけ」、「水不足でお風呂に入れなかった」、「生き残っても多くの死を目にし、生き残ったことを後悔した人がいた」、「方言を使っただけでスパイと疑われ命を奪われた」、「国のために」と命を預けていた、「対馬丸の沈没が知らされず、家族が長く不安な日々を過ごした」平和な時代を生きる私には想像もできない現実がそこにありました。

今、私たちが当たり前に行っている食事や入浴、自由に話すことや安心して眠ること、そのどれもが、当時は存在しなかったのです。便利さや安全に囲まれた日常が、どれほど貴重なものであるかを痛感しました。

また、先が見えない中、本土決戦に備え、私と同年代の学生までもが戦闘に参加させられ、多くが命を落としたことも知りました。同年代の子どもが銃を持ち、戦った現実を思うと胸が締めつけられます。戦争は敵も味方も、大人も子どもも、生き残った人も亡くなった人も、すべての人から幸せを奪います。しかし、極限の中でも人々は互いを思いやっていました。ガマで避難生活を送った人々は、わずかな食べ物や水を分け合い、けが人を看病し、弱っている人を励まし続けました。「命どう宝」という思いのもと支え合った姿から、どんな状況でも人を思いやる心が希望となり、助け合いへとつながることを学びました。

戦争で多くの命が奪われましたが、助かった命もあります。その命が受け継がれ、つながってきた先に、今の私たちの命があります。奪われた命の重みと、つながった命の尊さをしっかり受け止め、生きていくことが私たちの責任だと思います。そして、この平和は決して当たり前ではなく、未来へ守り続けなければなりません。

今も世界では戦争が続いています。日本に生きる私たちにできることは何か、それを考え、行動し、周りに伝えていくことが大切です。今回の学びを通して、私はこれからも平和について考え続け、自分の言葉で語り、次の世代へとつないでいきたいです。

### 【私の平和宣言】～身近な人を大切に～

私たちが今こうして生きているのは、命のつながりがあるからです。奪われた命の重みと、つながった命の尊さを忘れず、当たり前の日々を感謝の気持ちとともに大切に生きていきます。

平和は、ただ願うだけでは守れません。自分や友だち、家族を大切にすることが、平和な社会をつくる第一歩です。沖縄戦のような過去の悲しみや、今も続く世界の争いについて学び、伝えることで、平和の大切さを広めていきます。

また、互いを尊重する心を持ち、国や立場の違いを超えて差別や偏見をなくすことを大切にします。日常では友だちと尊重し合い、世界では誰もが安心して暮らせる社会をめざします。

さらに、戦争や災害で困っている人々への募金や支援活動にも積極的に参加し、小さな行動からでも世界の平和に貢献します。私は、この決意を胸に、未来へと確かな平和をつないでいきたいと思えます。



## 泉中学校 1年 新谷 柊二

### 【感じたこと・学んだこと】

僕は沖縄派遣事業で戦争の残酷さを感じました。特にひめゆり平和祈念資料館での証言映像は、衝撃的でした。宮良ルリさんはひめゆり学徒隊として壕で看護をしていました。壕の近くで戦いが起こるとひめゆり学徒隊と医師と自分で動ける患者は移動し、動けない患者は青酸カリ入りのミルクを飲まされました。とてもむごく悲しいことだと思います。患者はそのミルクに青酸カリが入っているのを知らずに喜んでいたそうです。移動した医師とひめゆり学徒隊と動ける患者は戦火から逃れましたが、その後ひめゆり学徒隊の解散命令が出されました。でもひめゆり学徒隊のほとんどの人は解散命令に反対しました。なぜならお国のために死に、靖国神社に祀られることが国民の幸せだと信じていたからです。しかし命令には逆らえないため壕から出ようとした時に、米軍が来てカタコトの日本語で宮良ルリさん達を捕虜にするといいました。当時の国際法では女性や子供は、負傷者や病者、民間人と同様に、捕虜として保護されるべき対象です。しかし、米軍の応答に応じる人いません。なぜなら米軍の捕虜になると、その人やその人の家族や親戚までもが非国民と呼ばれ非難されるからです。僕は、これはおかしいと思います。なぜなら保護されるべき人が自ら死を受け入れるからです。

結局、壕に爆弾を投げ込まれ多くの方が死んでしまいましたが、なんとか宮良ルリさんは生き残り故郷の石垣島に帰りました。その後亡くなった友人の家族に友人の最期を伝えたそうです。宮良ルリさんはとてもつらく申し訳ない気持ちだったと思います。

しかし、宮良ルリさんは思い出したくもない記憶だけど戦争を二度と起こさないために証言映像を残してくれました。僕はこの証言映像で一番心に残っているのは「戦争の怖さは体験しないとわからない」という言葉です。

戦争を体験しなくても戦争はしてはいけないというのはわかります。わかっているけど戦争はおきています。僕は戦争をやらずにすむ方法を学びたいと思って派遣事業に参加しました。沖縄のひめゆり平和祈念資料館や糸数アブチラガマ、南風原文化センターと沖縄陸軍病院壕ではひめゆり学徒隊や沖縄の人たちの戦争中の辛さや苦しさを学び、平和祈念公園の太平洋戦争の慰霊の礎を見て信じられないほどの多くの方が戦争で亡くなったことを知りました。対馬丸記念館では対馬丸撃沈の惨劇が学べました。多くの小さい子供たちが亡くなってしまい悲しいです。また、太平洋戦争に関する資料を見て日本軍も外国に対してどれだけひどいことをやってきたかも知りました。

僕が知りたかった『戦争をやらずにすむ方法』の一つは戦争の怖さや残酷さを理解すれば戦争を始めない抑止力になると思います。そのためには戦争のことを学ぶことが大切だと思います。

### 【私の平和宣言】～お互いを尊重しあう～

僕が平和のためにできることは、これからも平和について学び続けることだと思います。今回学んだ戦争の怖さや残酷さをみんなに伝えて、みんなが戦争や平和について考え学び続けることが大切だと思います。

しかし、戦争中の日本国民のように間違ったことを学んでしまうとひめゆり学徒隊のような悲しい出来事を防げないと思います。だから想像することが大切だと思います。自分たちが平和のためと考えたことが、「他の国の人々を傷つけてしまうことにならないか?」「自分たちの家族が悲しむことにならないか?」を想像することが大切だと思います。

これは、戦争だけのことでなく、いじめや身近なトラブルでも、想像し相手を気遣うことが必要だと思います。こんな身近なことから平和につながると思います。



# B班 派遣報告

中学生沖縄派遣事業  
成果発表  
B班 ♡



平和を大切に



～もっと早く知りたかった沖縄地上戦の事実～



## 鴨宮中学校 3年 門間 まいな

### 【感じたこと・学んだこと】

私はこの派遣事業を通して、改めて戦争は絶対にやってはいけないものだと思いました。元々、第二次世界大戦についての本や動画などで調べていたけれど、日本本土での初の地上戦となり多くの方が亡くなってたくさんの戦跡がある沖縄に行って実際に使われていたもの、写真や動画、生まれて初めてガマに入って「たった80年前にここにいる、どんな思いで生きていたのか」と考えられました。特にアブチラガマに入って、出入口の天井に黒く焦げた跡や、爆風で吹き飛び天井にへばりついていた赤茶色のものがまだ張り付いていたことに驚きました。

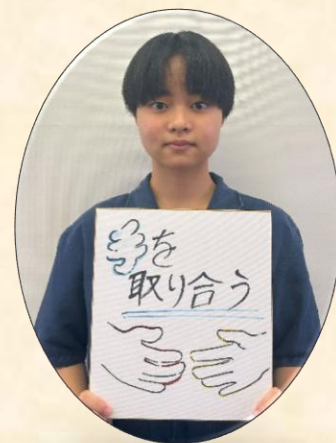
ガマの奥は、重症患者の人たちがいたようで、移動する時に置いてかれ明かりもなく、間隔のうめき声、水滴が落ちる音、血や腐敗臭が混じったにおいをかぎ、真っ暗な中苦しみながら亡くなった人がたくさんいる奥に実際に行き、懐中電灯を消してみると隣にいた友達がぼって消えました。こんな中、亡くなった人たちが本当にいたと考えるととても怖かったです。色々な戦跡や資料館に行くまで自分が歩いてきた道にもたくさんの方が亡くなって、まだ土の中にあるかもしれないと言われ、戦争の重さを知りました。対馬丸も子供たちを安全な場所にと親は送り出し、子供たちは港に着くまでワクワクしていたり、親と離れ不安だった子も一夜にして海に沈み港に着いたのはランドセルなどの荷物だけという悲惨な出来事があったことを知りました。沖縄に行く前に、ひめゆり学徒隊をモチーフとした漫画を読み「少し盛りすぎでは？」と思っていたけど、ひめゆりの塔やガマに行き話を聞いて、漫画で描かれていたことを思い出してほとんどのことが一致していることに気が付きました。

アブチラガマを案内してくれた人が最後に「みんなにも語り継いでほしい」と言われました。戦争を始めるのは人、終わらせるのも人だから、自分ひとりじゃできないけど、戦争を語り継ぎ繰り返さないようにしていきたいと思いました。

### 【私の平和宣言！】～手を取り合う～

自分と違う人を怖がらず否定せずお互いを認め合うこと。困っていたら自分のできる限りでいいから助けること。「ゆいまーる」を忘れないこと。自分の意思を相手に言葉できちんと伝える。戦争がどういう悲惨なことを引き起こしたかを語り継いで残していき、いつまでも忘れずに二度と繰り返さないようにすること。衣食住ができて大切な人と一緒にいることができる小さなことに感謝して生きていくことだと思います。

私が戦争を知ったきっかけになった漫画で語り継いでいきたい。戦争を知らない世代でどんなに調べても戦争の本当の怖さを知ることができない。ましてや、娯楽として扱われる漫画で描くだなんて恐ろしいことだけれど、映画やアニメ、それこそ漫画で戦争を知った人も多いと思い、嘘偽りなく美化せずに戦争の罪の深さ、命や平和の尊さを伝えるために戦争について調べ、考えていくことが自分ができることだと思います。



## サレジオ学院中学校 2年 奥野 和輝

### 【感じたこと・学んだこと】

私が沖縄に行って一番衝撃を受けたのはアブチラガマでした。

懐中電灯を手にしながらかつて足元を確かめて進んでいくと、天井が低かったり、岩肌がむき出しだったり、当時ここに避難していた人々がどれほど大変な環境にいたのかが実感できました。

洞窟の中はひんやりとしており、自然の静けさが漂っています。しかしその静けさの中には、かつてここにいた人々の苦しみや恐怖が染み込んでいるように感じられます。説明を聞きながら歩くと、「ここで多くの命が失われた」という事実が現実味をもって迫ってきました。

アブチラガマを出たあと、外の太陽のまぶしさが妙に強く感じられ、「平和とは何か」を自然と考えさせられました。

ひめゆりの塔に行って、戦争の悲しさや恐ろしさを強く感じました。資料館の中には、当時の写真や日記、使っていた道具が展示されていて、同じくらいの年齢の女の子たちが、看護の仕事をしていたことに驚きました。けが人を助けるために必死だったのに、砲撃や爆撃に巻き込まれて亡くなった人がたくさんいたと知って、とても胸が苦しくなりました。今の私たちは平和な中で学校に通い、友達と笑って過ごせていますが、それは多くの犠牲の上にあるのだと思いました。戦争は人の命や夢、笑顔を奪ってしまうもので、二度と繰り返してはいけないと心から思います。ひめゆりの塔で学んだことを忘れず、平和の大切さを自分のまわりにも伝えていきたいです。

首里城見学では、その壮麗な歴史と美しい建築に圧倒されました。赤瓦の屋根と豪華な装飾が、琉球王国の栄えを今に伝えています。敷地内を歩きながら、かつての王族の暮らしや琉球文化の深さに触れることができ、とても感動しました。復元された部分もありますが、火災で失われた部分の歴史の重みを感じつつ、未来に向けての再建への思いも伝わってきました。沖縄の歴史と文化を学べる素晴らしい場所であり、次回はもっとじっくり時間をかけて探索したいと心から思いました。

### 【私の平和宣言！】～今の平和に感謝しよう～

沖縄戦では、多くの人々が命を失い、住民も戦争に巻き込まれました。私たち中学生がその教訓から学べることは、戦争の悲惨さを忘れず、平和の大切さを次の世代へ伝えることです。まず、歴史の事実を正しく知り、家族や友達と話し合うことで、戦争を遠い出来事にしないようにします。

また、学校の平和学習や地域の平和行事に積極的に参加し、平和への意識を高めます。さらに、争いが起きそうなときに、相手の立場を考えて話し合いで解決する習慣を身につけることも大切です。小さな思いやりや協力の積み重ねが、大きな平和につながると思います。沖縄戦の教訓を胸に、平和な未来をつくる一員として行動していきたいです。



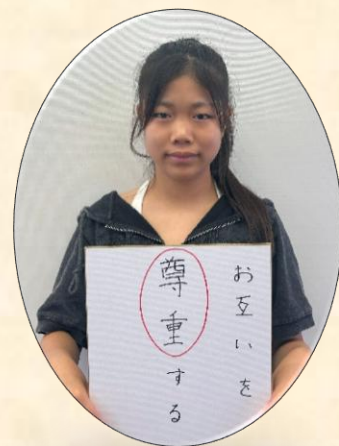
## 白鷗中学校 2年 鈴木 七海

### 【感じたこと・学んだこと】

今回の派遣事業で沖縄戦の様々な記録や被害の傷跡が残っている場所を訪れました。ガイドの方のお話や資料館の見学などで様々なこと学びました。特に印象に残っているのはガマの中に入った時のことです。ガマの中の冷たさや暗さにこれまで経験したことのない恐怖を感じました。当時はここで何十人もの人々が身をひそめ、私と同じ位の学生達も学徒隊として協力していたと思うと胸が締め付けられる思いがし、このような状況で死を目前にして精神状態を保ち正常な判断することは難しかったらうと思いました。沖縄戦は多くの住民が巻き込まれ、爆撃、飢餓などで多くの人が命を落とした事、多くの被害を受けた事は現地に行く前の学習などで知っていましたが、想像以上に悲惨な出来事でした。私は今回の学習でもう一つ知らなかった事を知りました。それは日本の「被害者」としてだけではない一面があった事です。日本は兵隊としてアジアの国々からもたくさんの人々を連れてきたにも関わらず、一人ひとりの記録を残すこともなく、身元不明のまま亡くなられたアジアの人々が多くいたということです。この点においては日本は「加害者」であったと知り、戦争においては「加害者」「被害者」と分けられない部分があるのだと感じました。戦争が国や人々を追い詰め、その状況が人間らしさや思考などを変えてしまう。そこには「正しい」「間違っている」だけに分けられない「そうせざるをえない」現実があったのかもしれない。今回の訪問までの私は「戦争」=「悪い国が一方向的に国を攻撃し引き起こす」ように捉えていました。でもその悪い国とはなんだろう？それぞれの国や場所、人によって「加害者」「被害者」どちらの側面もあり、攻められた自国を守るために加害者となっている部分もある。こう考えたとき、戦争は互いの「正義」の食い違いなのではないかと考えました。自国にとっての「正義」は他国の人にとっては「悪」となり相手を傷つけているのかもしれないという事です。これは私たちの日常においても同じだと思います。例えば意見が対立した時、自分にとっては「正しいと思う事」つまり「正義」かもしれないが、相手にとっての「正しさ」「正義」とは違い、それぞれの「正義」がぶつかり合い喧嘩や争いになるのだと思います。これらを考えると、「宗教」「領土」「経済」「資源」など戦争のきっかけは色々だけれど、どれも片方だけの正義だけが正義ではないと理解すること、多面的に物事を考え、相手の「正義」と自分の「正義」の違いを認めること、互いを尊重していくことが戦争を引き起こさないために必要な事なのではないかと思いました。

### 【私の平和宣言！】～お互いを尊重する～

人類は戦争が「残酷」「恐ろしい」「繰り返してはならない」ことは知っているはずなのに戦争はなくなっていない。今の私たちに必要な事は今回のような「学び」だと思います。そして学びの後に私達が平和のためにできることはよく知り、自分でよく考えてみる事、相手の立場になって想像してみる事、その上で相手の「正義」と自分の「正義」の違いを認め、互いを尊重していくことだと思います。その先に平和があると考えます。現在も核の問題や防衛についてなどさまざまな課題があります。今の私には平和のために急に大きな事はできないけれどこのような視点を持って物事を考えていくことはできるはず。私は今回の学びを活かし、日々世界で起きている事象に関心を持ち、理解すること、想像してみる事、わかり合う事からはじめていきたいと思っています。



## 城山中学校 2年 大水 后

### 【感じたこと・学んだこと】

僕が今回の派遣事業で学んだことや感じたことは複数あります。実際に行って感じたことはその地域にもよりますが、それぞれに壕、慰霊碑、またはそのガマやその場所で何があったのかを説明する施設がありました。僕はもっとそういう施設は少ないと思っていました。しかし、僕が思っていた以上に多いことに驚きました。沖縄戦のことは知ってはいましたが、沖縄本島だけでも沢山の慰霊碑やガマ、壕があり、予想以上でした。

特に印象に残ったのはアブチラガマを見た時、入る前は小さい鍾乳洞だと思っていましたが、自分が思っていたのとは比べ物にならないくらい大きかったことと、それと同時に中がとてつもなく暗いことに驚きました。ライトを全員で消してみたら手が見えないくらい暗くてびっくりしました。ですが特に驚いたのはアブチラガマの中でガイドさんから聞いた体験者の証言でした。その人は重病患者で味方の人と一緒に寝たきりだった時、すごく喉が乾いていて近くで川の流れる音がして、その人はその水を飲めたら死んでもいいと思っていました。そう思っていた時、米軍の爆撃の衝撃波で吹っ飛ばされたそうです。そして、たまたまその川の目の前に飛ばされそのまま水を飲むことができました。そして味方の人が水をくれと言いました。そして、その人は死に物狂いで水筒に水を入れて、その水を味方に分け与え、戦争から生還したそうです。僕はガイドさんから聞いてびっくりしました。そんな奇跡のような話があるのかと思いました。

次に学んだことは、このような戦争を繰り返すことは絶対にしてはいけない。その理由は、今、第二次世界大戦のような戦争を始めてしまったら地球が住めない状態になりかねないのと、国同士の関係に亀裂が入ってしまい仲が良かった人達まで戦わなければならないからです。今回の派遣事業で行った場所では、戦争を繰り返さないようにするために、この場所で何があったのかを伝えるための施設があります。これを現代に生きている多くの人に見て貰い、そして、二度とこのような戦争を繰り返してはいけないことを伝える。あとそれぞれの国が話し合いそれぞれの国が認め合う、そうすれば世界平和に繋がると思いました。これが僕の考えです。

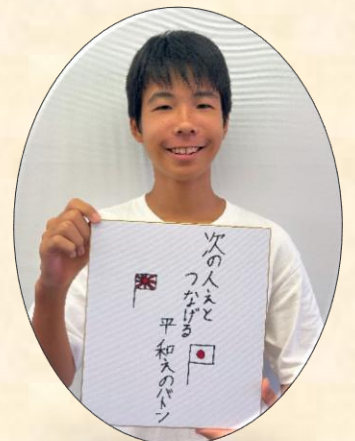
### 【私の平和宣言！】～次の人へとつなげる平和へのバトン～

僕の平和宣言は、まず今回の派遣事業で沖縄各地に行ったときに自分に何ができるのか考えてみたらいくつか自分に出来る事が浮かびました。

一つ目は親切をすることです。理由は、困っている人に親切をすると嬉しい気持ちになりますし、親切にされた相手も嬉しくなります。それは平和に繋がると思いました。

そして二つ目は周りの人にあいさつをすることです。理由は、お互いの心が温まるので良いのではないかなと思うからです。またあいさつが出来るということは、平和な時なのではないでしょうか。

そして三つ目は呼びかけです。今回見て感じたことを多くの人に伝えることです。多くの人に伝えることで、この戦争をもっと詳しく知ってもらって平和のためにどんなことが出来るか一緒に考えてもらえたら嬉しいです。



# 白鷗中学校 1年 白方 怜奈

## 【感じたこと・学んだこと】

今回の沖縄派遣事業では、ひめゆりの塔、平和資料館、平和公園、首里城、対馬丸記念資料館、アブチラガマ、南風原陸軍豪と資料館の7か所を訪れました。

これらの場所を実際に見て回ることで、教科書だけではわからなかった戦争の現実や、その悲惨さをより深く学ぶことができました。

ひめゆりの党では、看護にあたった多くの女子学生たちが若くして命を落としたことを知り、まだ若い彼女たちが戦争の中でどれほど苦しんでいたかと考えると、胸が締め付けられました。

彼女たちの犠牲は、私たちが今平和に暮らせていることの大きな礎だと感じました。

対馬丸記念資料館では、戦争の影響が子供たちの未来までも奪ったことを学びました。

学童疎開の途中で撃沈された対馬丸で、多くの子供たちが家族と引き離され、命を失ったという悲劇は、戦争の非情さを痛感させられました。

戦争は人々の普通の生活や夢を簡単に壊してしまうことを強く感じました。

アブチラガマや南風原陸軍豪の壕の中に入ると、真っ暗で狭い空間に身を置き、当時の人々が感じていた恐怖や不安を肌で感じました。

資料や写真だけでは想像しにくい、実際の空気感や苦しみを体験し、戦争の現実がより身近に感じられました。

また、首里城や平和公園を訪れ、沖縄の豊かな歴史や文化の美しさ、そして戦後の復興の強さを目の当たりにしました。

平和公園の静かな景色は、戦争の悲劇を忘れずに平和を願う人々の思いが込められているように感じました。

これらの経験を通して、戦争は過去の遠い出来事ではなく、今を生きる私たちにとっても大切な教訓であると気づきました。

歴史を学び伝えるころは、平和を守るための大切な責任だと思います。そして、私たち一人一人が平和の尊さを理解し、未来へつなげていくことが必要だと強く感じました。

また、戦争を経験した人々の声に耳を傾け、その思いを忘れないことが、二度と同じ過ちを繰り返さないためにも重要だと感じました。

## 【私の平和宣言！】～笑顔があふれる世界～

私はまず、戦争の歴史や今回の沖縄派遣事業で学んだことを家族や友人に伝えていきたいです。戦争の悲惨さや平和の大切さを多くの人に知ってもらうことが、平和を守る第一歩だと思います。

また、学校やSNSを通じて平和について考える機会を増やし、平和の価値を広げていきたいです。

争いを避けるためには、相手を理解し思いやる心が必要だと感じたので、日常生活でも他人を傷つけない言動を心がけます。

さらに、未来のために平和の大切さを忘れず、自分の行動で示していくことで、少しずつでもより良い社会を作りたいと思います。これが私にできる平和への貢献だと信じています。



## 橘中学校 1年 大野 満月

### 【感じたこと・学んだこと】

派遣事業を通して学んだ事は、今とは全く違うことがあったんだということです。

ひめゆり平和記念資料館で学んだ事は、糸満市は「最後の激戦地」と呼ばれていること、2ヶ月かかって首里城に来たこと摩文仁まで軍を下げたのは長引かせるためだったこと。地上戦は約190日、死者数約20万人いたことなどを学びました。こんな多くの人が亡くなっていて、苦しい生活が資料館に行ってもわかりました。

対馬丸記念館で学んだ事は、対馬丸は貨物船だったと言う事。対馬丸が沈没したことを人に喋ってはいけなかったことなどを学びました。私より小さい人が決断をして船に乗っているのが凄いいし、他者に話さないようにするのもすごいなと思いました。

南風原文化センター、沖縄陸軍病院、南風原壕跡で学んだ事は、2人～4人でめしあげしていること、戦死した兵士は「名誉の戦死者」として称えられていたこと、壕などに避難している。住人をスパイの嫌疑をかけて、虐殺したりしていたことなどを学びました。すごく暗い中すごく怖いことがあるのは自分がいるなら嫌な事でもそれに耐えている人がいるのをすごく思っています。

アブチラガマでは沖縄戦時に、日本軍の地下陣地や避難指定場所、倉庫等いろいろな人に使われていて、戦場が南下すると南風原軍病院の分室になって、軍医、看護師、ひめゆり学徒が配属されて約600名の負傷兵が運び込まれてきたことなどがわかりました。沖縄陸軍南風原壕でも思ったのですが、暗くて臭いもきつい中耐えているのが凄いいと思うし、重症兵たちのいるところではもっと辛いと思うのに生き残った人がいるのが凄いいと思いました。配属された人たちで人数も少ないのに治療していたりするのがすごいなと思いました。ガマの中の構造もしっかりして考えられて作られているんだなと思いました。

これらを実際に見て感じた事は、戦争をしても人が悲しくなるだけだと思うので、戦争をする意味はないと思いました。

### 【私の平和宣言！】～当たり前こそ大切に～

これから自分が平和のためにできる事は沖縄に行って学んだことを学校などの周りのみんなに教えたりすることが大切だと思います。

たとえ1人だとしても、その1人が周りの人に知らせればどんどん広がっていくと思うので、1人にでもこの体験を教えられたらいいなと思いました。具体的には沖縄に行って見た、ガマや壕などの暗くて苦しい話や、対馬丸での悲しい話などをもっと周りの人に話すと、広まっていいと思います。

また平和とは少し違うかもしれませんが、友達と仲良くするのも大切だと思います。いじめなどがあつたら平和ではないと私は思うので、友達と仲良くして人のことを認め合ったりするのも必要だと思います。差別などもなくしていけば、国と国とが仲良くなれるかもしれないし人と人とも仲良くなれると考えました。





# C班 派遣報告

今じゃ経験できないことや  
考えられないことを伝えていきたい！



CCLレモン班



CCLレモン班

マフカラサマ

- ・暗闇体験
- ・不衛生な環境
- ・暗く広い慣れない環境に苦しんでいた

ひめゆりの塔

- ・同年代の子達が僅かにのこと
- ・日々命がなくなる心配があること
- ・人権があるのにほめない
- ・自分がしたいことができる。



平和じゃない  
田舎！！

〜理由〜  
バグメ！！  
人権侵害！！

〜平和じゃない〜  
一人一人の平和の  
思いを分かちあうこと。  
それ発信  
しよう！！

## 酒匂中学校 2年 大野 幸咲

### 【感じたこと・学んだこと】

私は沖縄に行って資料館や公園で色々な事を学びました。その中で印象に残った3つの施設について書こうと思います。

まず、1 つ目はひめゆり平和祈念資料館です。そこには、給料のことや休暇についての展示がありませんでした。きっと、現代の働く環境よりも、とても過酷だったのではないかなと思いました。「お国のため」に、過酷な環境で生活して、切られた腕をみても何とも思わなくなったということが、「洗脳された人」という感じで怖かったです。

次に印象に残ったのは南風原文化センター跡地です。負傷兵の体験ができるという展示で、実際に寝っ転がって見たのですが、布団もなく寝心地が悪く不衛生な環境で、精神的にも肉体的にも大変だったろうと思いました。跡地である壕の中にも入ったのですが、すごく狭くて足場が不自由で、当時の人達のストレスは計り知れないなと思いました。

最後に印象に残ったのはアブチラガマです。まず入り口が狭くて天井がすごく低く、アメリカ軍の人達もこのガマは見つけれないと思ったのですが、激しく攻撃された跡があり驚きました。他にもガマなので周りに光がなく、暗かったのもすごく印象に残っています。

特に印象に残ったのはこの3つですが、首里城など、一見戦争と関係のなさそうな建物も、戦争の被害を受けていて驚きました。「面白そうだから行く」「怖そうだから行かない」と勝手に決めつけるのではなく、時間が許す限り幅広い視点で戦争について見つめる事が大切だと知りました。

### 【私の平和宣言！】～「忘れない」じゃなくて「深く知る」ことが大切！！～

今回の沖縄派遣を通して私が伝えたいことは、「当たり前が当たり前じゃなくなる事の大変さや恐ろしさ」「戦争の怖さから目を逸らさず、しっかり向き合うこと」です。まず「当たり前が当たり前じゃなくなる事の大変さや恐ろしさ」についてです。私は好きな物を食べ、学校へ行って、塾へ行ったりしています。私にとってはそれらは日常であり、「当たり前」です。戦争が起こる前の少女達も学校へ行って好きなことをやっていたと思いますが、戦争が始まり、好きなご飯を食べたり、学校に行けなくなりました。個人的に学校がなくなるのは少し嬉しいですが長期間なくなるとなると将来の事が心配です。私は今の日常いわば「当たり前」がなくなるのが怖いのです。元々この想いはありましたが、沖縄派遣に行って強く感じるようになりました。次に「戦争の怖さから目を逸らさず、しっかり向き合うこと」についてです。戦争は殺し合いであり、怖いと思うのも無理はありません。ですが、当時の人は怖い以前に「死」の恐怖と闘ってきました。私は一度しかない人生でそんな思いをしたくありません。その「戦争の怖さ」をしっかりと知って、下の世代の人達に知らせて、戦争を繰り返さないことが大切なんだと改めて感じました。我ながら綺麗事しか書いてないなと思いましたが、綺麗事が嫌いな私が綺麗事のような事を書くくらい戦争は人の悪いところを全部集めた塊なんだなと思いました。私はもう二度と綺麗事は書きたくありません。なので私みたいな人間が綺麗事を書かなくても済むように「戦争は駄目」ということを下の世代に伝えてその言葉の意味を「当たり前」にしていきたいです。



## 泉中学校 2年 仲内 優姫

### 【感じたこと・学んだこと】

ひめゆり平和祈念資料館は、学徒隊の方が急に学生ではなくなり、看護活動に参加し、過酷な状況での様子を展示品や映像を観て話を聞きました。自分と年齢差のない学生が戦場の最前線で日々を過ごすという事実は辛いものでした。

家族と過ごし勉強をして友達と遊びたい年頃です。命の危険がある場所では覚悟が必要です。毎日、病気の兵士の看護やお世話をし、命の危険と隣り合わせで毎日生きていかなければいけないことは、私には恐怖です。

平和祈念公園は、海が見えて景色が素晴らしい場所です。しかし、当時はこの素晴らしい景色から、敵の船や飛行機が爆弾を積んで、自分たちに向かってくると考えると、素晴らしい景色ではなく、恐怖でとても怖く全速力で逃げて逃げ切れないとても辛い景色になってしまうと考え、ただ気持ちよく綺麗な海と簡単に終わらせることはできません。この公園は、今は観光の要・聖地になっていますが、世界の恒久平和を祈念し、平和の情報発信を機能し、平和の礎があります。この公園を訪れる、思い出すたびに、平和を祈り、二度と戦争を起こさないという誓いを忘れません。

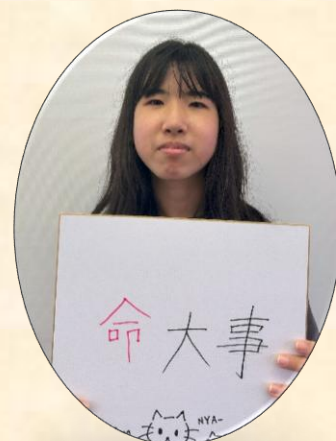
対馬丸記念館は、人混みで蒸し風呂のような船の中、家族と離れ出航し、子どもたちの不安を感じ取れました。魚雷が発射された夜、パニックになり、急いで甲板に出ましたが、ほとんどの人が生き延びる事が出来ず、多くの人々が溺れ、イカダに乗るも、餓死や船の水没時の渦に巻き込まれ、亡くなりました。記念館では、そのような話と、生き残ることができた人の話をまとめた資料を見て学びました。まだ小学生で疎開するだけでも悲しいのに、乗っていた対馬丸まで魚雷に撃たれて水没してしまうという悲劇は、辛く、二度と起こしたくない事実です。

アブチラガマは、目を開けてるか閉じているかがわからない程真っ暗です。私が衝撃的だったのは、兵士が怪我したとき、傷口から菌が入って感染症になるのを防ぐために、手や足を麻酔なしで切断していたということです。激痛という言葉では表現できない痛み、暴れた人や叫んだ人もいたはず。学徒隊は、その兵士を押さえ、切れた手足を外まで持っていき、次第に慣れてくると感覚が麻痺し、切れた手足を運ぶのが当たり前になり、「これは〇〇さんの足だ」とか、「これは〇〇さんの腕だよ」とか、雑談の様な感覚で話すほどでした。そして、今の私達のほとんどは暗い所より、明るい所のほうが安心すると思いますが、当時は明かりがある場所に出ると危険で恐怖の光と考える人も多かったようで、現在との感覚の違いを知りました。また、ガマの中が暗くて良かったと言う話もあります。ガマの中が暗かったおかげで、怪我人の怪我をしっかりと直視なくて済んだからです。明かりのないガマの暗さを体験し、当時と今の心境の違いを学びました。

### 【私の平和宣言！】～命大事～

私の平和のためにできることは、戦争の残酷さ、悲惨さを周りの人に伝えることだと思います。戦争は、私が思っていたよりも多くの人々に影響を及ぼし、戦争が起こっていた当時は、私達と同じくらいの人達も戦場に行ったり、看護をしたりしていたことが分かりました。こういったことに加わった中学生の中で、約 1000 人以上が亡くなってしまったことなども分かりました。私は実際に戦争を経験したわけではありませんが、見たことや、聞いたこと、展示を通して周りの人や友達に、戦争は二度とあってはいけないことなど伝えなきゃと沖縄で感じてきました。

今後、学校の授業や友達との会話、SNSを使って沖縄で感じたことを発信し、大人になっても継続して想いを伝え、過去の残酷さや平和の大切さ、絶対に戦争をしてはいけないことを、今回の沖縄で過ごしたことを胸に生きていきます。



## 鴨宮中学校 2年 保田 加ミ千代子

### 【感じたこと・学んだこと】

私はこの夏、小田原市のプログラムで戦争の歴史や平和について学ぶ機会をいただき、沖縄を訪れました。事前には、参加者全員で沖縄戦に関する資料を読み、話し合いを重ねて準備をしました。その時は、戦争があったことは理解していても、どこか遠い出来事のように感じていました。

しかし、実際に現地を訪れ、戦争の舞台となった場所や証言、展示物に触れることで、想像をはるかに超える経験をしました。戦争の悲惨さや命の重みを、心の底から実感しました。

特に印象に残ったのは、ひめゆり平和記念資料館です。証言映像や遺品を通して、ひめゆり学徒隊がどのように動員され、傷病兵の看護にあたったか、攻撃や怪我の様子まで知ることができました。必死に逃げながら仲間を思いやった女学生たちの気持ちが伝わってきて、胸が締めつけられました。今の私と同じくらいの年齢の子たちも、こんな想像を絶する体験をしていたことが信じられませんでした。

平和祈念公園では、戦没者名簿を目にして、多くの方々が犠牲になった事実に圧倒されました。普段は公園として使われているこの場所が、歴史と向き合う大切な場であるのだと知りました。資料館には戦時中の写真が数多く展示されており、目を覆いたくなるような悲惨な光景が写っていました。写真を撮った人はよくこんな瞬間を撮影できたものだと驚きつつも、記録が残っているからこそ、私たちは戦争の現実を知ることができるのだと、複雑な気持ちになりました。

アブチラガマでは、わずかな光の中で、医師やひめゆり学徒隊に限られた医療資源で治療や看護を行っていたことを知りました。命を救おうとした人々の努力と、その過酷さを洞窟の中で深く心に刻みました。

南風原文化センターでは、沖縄陸軍病院や壕跡について、実際に中に入りながら説明を受けました。入口には当時使われていたつるはしや点滴がそのまま残されており、医療器具やベッドが置かれていました。それを見て、私は父から聞いた内戦の話を思い出しました。父はスリランカ出身で、子どもの頃に内戦を経験し、学校やお寺に避難したことがあるそうです。警察官が兵士として戦場に派遣されることもあったと聞いています。

戦争は遠い過去の話ではなく、今も世界のどこかで起こっている現実です。今回プログラムに参加して、今あるこの平和は決して当たり前のもではなく、歴史の中で多くの犠牲があったことを学ぶことができました。過去の悲劇を忘れずに、そこから学びながら、平和と日々の暮らしのありがたさを大切にしていきたいです。これから私は、沖縄で学んだことを自分の言葉で周囲に伝え、平和の重要性を考えてもらえるように、過去の戦争を忘れないよう伝えていきたいと思っています。

### 【私の平和宣言！】～多様性を理解できる人でありたい～

沖縄で戦争の歴史に触れ、平和の大切さを実感しました。これから私は、図書館で平和に関する本をもっと読んで知識を深め、今回学んだことを自分の言葉で周囲に伝え、戦争の記憶を忘れないよう努めたいと思います。

また、父がスリランカの内戦を経験していることを改めて思い出し、もっと家族や親戚の戦争体験を聞いてみたいと思います。異なる視点から戦争と平和について考えを深めたいです。

過去と向き合い、身近な人の経験を知ることが、平和を守る一歩になると思います。



## 城北中学校 2年 木下 呼春

### 【感じたこと・学んだこと】

戦後80年の年に私は中学生沖縄派遣事業に参加してきました。日本で唯一地上戦があった沖縄に行くことによって戦争の悲惨さや過酷さをより詳しく知ることができました。沖縄では一般の人も戦争に巻き込まれ、県民の4人に1人が亡くなったと知りました。

私が行った中で特に印象に残ったのは、ひめゆりの塔です。ひめゆりの塔は亡くなった方の慰霊碑で、すぐ隣に資料館がありました。資料館ではひめゆり学徒隊の事について沢山説明されていました。戦争が過酷になってきた事によって、沖縄の那覇市で勉強をしていた普通的女子学生や先生方も、ひめゆり学徒隊と呼ばれ軍隊に動員され生徒と教師227名が亡くなっています。13歳から19歳までの生徒約1150人が勉強やスポーツに打ち込み、友達との楽しい学校生活を送っていたそうですが、一人ひとりの大切な命がたった3ヶ月間という一瞬の間に奪われたそうです。ひめゆり学徒隊は、戦争で負傷した兵隊さんのお世話をする為に陸軍病院に動員されました。戦争を知らない私には想像が付きませんでした。実際に見学してみると病院と言っても建物があるわけではなく、人が掘った真っ暗な洞窟でした。洞窟は血と排泄物が混ざったひどい匂いだったそうで、戦争で負傷した人を麻酔や薬がない中で手術するので、痛くて暴れる患者の身体をひめゆり学徒隊が、おさえるお手伝いなどをしていたそうです。私が衝撃的だったのは、日本軍からの指示でひめゆり学徒隊が何も知らされないまま、重症になった日本人の兵士を殺す為に用意された青酸カリの入ったミルクを飲ませるよう指示され、自決の強要が行われていた事です。

ほかにも日本は1941年教科書などの授業が変わりました。教科書に戦車や軍艦など、戦争に関するものが多く登場し、将来強い兵士になるための教育が変わったため、アメリカ軍に殺されるなら自決しろという教育が行われました。集団自決など、戦場で戦って殺された人だけではなく、一般の人が間違えた教育や情報によって亡くなった事を知り衝撃的でした。沖縄に行ったことで、行く前に学んだ事よりも悲惨な出来事が、ここに書ききれないほど沢山あった事を知りました。

自分で考え自分の目で実際に確かめることの大切さを知りました。そして、二度とこんな悲惨で過酷な戦争を繰り返さない為に、学んだ事や体験した事を周りに伝えなくては行けないと強く思いました。今回のプログラムに参加させていただきありがとうございます。

参加したことにより、改めて戦争の怖さを知ることができました。

### 【私の平和宣言！】～ひとり一人の幸せと笑顔～

平和とは今まで私の身近なところにあるものであまり意識して考えたことがありませんでしたが、沖縄に行って戦争でおきた悲惨な出来事を知ることで、今ある幸せが当たり前ではないことに気が付くことができました。今は食べることも寝る事も当たり前で平和と感じた事はありませんでした。戦争中は食べ物が少なかった為、ごはんが食べられず、落ち着いて寝る事もできない過酷な状態だったとしました。

今回のカリキュラムで平和について考えることができ、命の大切さを知る事ができました。戦争をやることの愚かさ、亡くなった人への悲惨な思い、命の大切さを、沖縄の人達が二度と戦争が繰り返されないように必死に伝えてくれたからこそ、今の世の中に平和があるのだと思いました。

そして今度は私達が沖縄で学んできたことをより多くの人に伝え、託された思いを次の世代へ繋いでいきたいです。



## 千代中学校 1年 伊藤 陽哉

### 【感じたこと・学んだこと】

今回このような機会を与えてもらったことに感謝します。この沖縄派遣授業を通して感じたことと学んだことは大きく四つあります。

一つ目は、戦争の恐ろしさ、怖さです。戦争では、いつどうやって殺されてしまうかという思いがいつもあり怖かったと思います。僕がこの沖縄戦の時に生まれていたら、すぐに嫌になって生きていけないと思いました。

二つ目は、平和についてです。今僕たちが生きている世界は平和だと思います。それに比べて戦争が起きていた時代は、平和とは絶対に言えない時代でした。毎日毎日爆発音がそこらじゅうに響いて、銃の音がして怖かったと思います。食料もあまりないので、今のようにご飯がたくさん食べれたりしないので平和じゃないと思いました。

三つ目は、戦争はもう二度と起こしてはいけないと言う事です。戦争は何も生みません、生まれるのは人々の悲しみなどです。大切なこと、物、人がなくなったとき人々は生きることをあきらめたり、絶望します。その悲劇をもう二度と繰り返さないでほしいと思いました。

四つ目は、家族や、友達に感謝の気持ちを持つことです。日本兵も平民も家族に会えないまま亡くなったり、生き残っても親が亡くなっていたりしていた人がいたかもしれません。だから僕は家族や友達に感謝して生きたいです。

#### 「感想」

ひめゆりの塔では深さ 12 メートル以上あるガマを見ました、下が見えずそこに避難して米兵から身を隠していたと考えると安心して寝れなかったと思います。対馬丸記念館では僕たちより年下の子たちが対馬丸に乗って九州の方に向かっていった途中の夜にアメリカの潜水艦に撃ち落されて半分以上の人々が亡くなったと聞きました。記念館には対馬丸に乗っていた子供のランドセルが展示されていました。アブチラガマでは 70 メートル以上ある自然にできたガマを探索しました。一番奥の脳傷患者がいたところで実際に懐中電灯の明かりを消してみました。あたりは真っ暗で前にいた人が見えませんでした。負傷した兵隊はアブチラガマや、沖縄陸軍病院などの病院にいたそうです。今の生活と比べて昔は食料不足、毎日テニスボールよりも小さいおにぎりを一つしか食べられなかったといいます。米軍がガマにちかづいてくるとほかのガマに行き避難します、しかし重症の日本兵たちは自分では歩けないためなんとか自力で歩ける日本兵に「俺を連れてってくれ」と頼みます、しかし蹴とばされ見捨てられます。やがて見捨てられた日本兵は空腹や、病気によってなくなってしまいます。その時の日本兵たちはとても苦しかったと思います、毎日毎日仲間が目の前で亡くなっていくから、とても生きた心地がしなかったと思います。それに比べて今の日本は沢山ご飯が食べれて安心して寝れる、すごく平和だと思います。だからこの学習を通して平和の事、命の大切さについて、これからの生活ではしっかり考えていきたいです。

### 【私の平和宣言！】～友達を大切に～

僕が平和のためにできることは二つあります。

一つ目は、募金などで困っている国に少しでも募金をし、助けたいです。

困っている国に募金をするとその国に水や食べ物などが送られ飢えてる人たちが助かると思うからです。

二つ目は、思いやりを持って身近な人に接することです。

僕たちは沖縄に行ってきたたくさんのことを学び、たくさんのことを知りました。その戦争の情報を家族や、友達に教えて戦争のことをたくさんの人につたえればみんなも平和の為に何かできることはないか、と考えると思います。そして平和についてみんなでしっかりとかんがえます！



## 城山中学校 1年 渡辺 優菜

### 【感じたこと・学んだこと】

事前学習で、今回見学に周る場所は調べていましたが、実際その場所に立ち、自分の目で見ることで、実体験の話を耳で聞くことで、実際の情景が目に浮かび、恐ろしさや悲しみなどを感じるとともに、もう二度と同じようなことがあってほしくないという感情が込みあがってきました。

見学した場所の中でも印象に残ったのは、負傷兵が治療にくる防空壕やアブチラガマでの手術の話です。治療を行う環境は、ろうそくの灯りのみ。麻酔なしで手術を行い、大の大人が大きな声で叫びあげ、もがき苦しむのを抑える役割として「ひめゆり学徒隊」が活躍しました。実際の場所を案内され、80年前そのようなことがあったかと思うと、正直暗くて、怖くて、目の前で大きな声で叫ぶ兵士に、自分だったら何ができたでしょうか？と考えさせられました。私だったら、きっと何もできなかったと思います。

しかし、同じ年位のひめゆり学徒隊の女の子たちは、「お国のために」と自分への見返りや自分の命もかえりみず、ただただ、戦争と向き合っていた姿があり、すごいと感じました。

今年は、戦後80年。今はまだ戦争を経験した人が、実体験などを語ってくれる機会もありますが、これから先、戦争は遠い話となっていく、私たちより若い世代になると、日本で戦争があったこと自体、本当のことと思えないような時代がやってくるのではないかと思います。

たくさんの犠牲になった命があり、その人たちがこの日本のためにと、戦ってくれたからこそ、今私たちが安心して生活を送ることが出来ているのです。

沖縄から帰ってきて、まずは家族に沖縄でみてきた戦争の悲惨さを私は伝えました。弟は、戦争についてあまり知らないなので、私の話をキョトンと聞いていました。

私にできることは、少しですが今回このような機会をいただいたので、友達や家族、身近な人に沖縄での戦争について自分の知っている範囲にはなりますが、伝えていくことが使命だと思います。

今回この25名で、沖縄に行き一緒に学習できたことも私にとって、大きな財産となりました。一生忘れないと思います。

この機会をいただきありがとうございました。

### 【私の平和宣言！】～一人一人の優しさが平和を作れる～

私が目指したい世の中は「笑顔が咲く 幸せな毎日」です。

些細なこと、ちいさなことでもすぐに行動するという。思っているだけでは何も変わらないし、伝わらないということはこの沖縄派遣事業で学びました。いじめや喧嘩している人がいたら声をかける。勇気を出して一言を言えたら、世界はほんの少しだけ平和になると思います。そのほんの少しが積み重なることで平和な暮らしを送ることが出来ると思います。まだ、世界では戦争をしている国があります。この研修を通し、一日も早く世界中が誰もが幸せに安心して暮らせるように…と強く思いました。



## 城南中学校 1年 田口 大翔

### 【感じたこと・学んだこと】

今回の派遣事業に参加する前の私は、戦争について詳しく知らず、どこか遠い世界の話のように思っていました。しかし、沖縄へ行き実際の戦跡を自分の目で見て、これほどまでに戦争が身近にあったことを初めて認識しました。また、戦争体験者や施設の方の話を聴いて、沖縄戦の詳しい内容を知ることも出来ました。

ひめゆりの塔では、ひめゆり学徒隊が隠れていたガマを見学し、どのような場所でどのように隠れていたのかを鮮明に想像することが出来ました。施設の方からスライドを使った説明を聴き、ひめゆり学徒隊の生き様を知ることが出来ました。自分と同じ世代の生徒がとてもつらい体験をしたことを知り、心が引き裂かれる思いをしました。

平和記念公園では戦争の被害者が刻銘されている石を見て、これほどまでに沢山の人が命を落としたのかとショックを受け、改めて戦争の悲惨さを実感しました。そして平和の灯を見学し、沖縄の人々の「戦争を二度と繰り返さない」という意志を強く感じました。

アブチラガマでは、実際に使われていた場所で負傷兵が身を置いた暗闇を体験し、当時自分がそこにいたような気持ちになりました。それに加え、アメリカ軍に爆撃された跡を見学することで、戦時中の状況に対する理解がより一層深まりました。

対馬丸記念館では、対馬丸事件の全貌を施設の方に聴きました。自分より幼い子供たちが沢山亡くなった事件なので、とても悲しく思いました。遺影もあり、亡くなった人数が分かるようになっていたので更に悲しくなりました。

南風原文化センターでは、資料館で模型や、ひめゆり学徒隊が米の入った樽を持って走った山道と日本兵が隠れていた壕などを見学し、また戦時中の出来事だけではなく終戦後の日本が復興し始めた頃の人々の暮らしなどを見ることが出来ました。悲しい戦争ですが、人々が前を向いて生きていたことを知り少し希望を持ってました。

その後のディスカッションでは、

- ・今の日本は平和か
- ・平和になるためにはどうすればいいのか

などを考え、まとめて発表することで、平和に対する関心が深まりました。

今回のように施設の方や実際に体験した方に当時の話を聴き、戦争を肌で感じて理解を深められたことはとても貴重な体験でした。今度は私たちが次の世代に戦争のことを伝えていきたいと思います。

### 【私の平和宣言！】～繋げる平和～

たくさんの人々が戦争について詳しく知っていれば、戦争がどんなに残酷なものであるかを想像することが出来る世の中になると思います。そうすれば必ず戦争が起きることはないはずなので、私自身もたくさんのことをもっと学び、今回のように被害が大きかった場所へ行くなど、戦争についての知識をより深めようと思います。

また、学んだことを積極的に周りの人に伝え、たくさんの人に戦争に関心を持ってもらえるように努力したいと思います。そのほんの少しが積み重なることで平和な暮らしを送ることが出来ると思います。

まだ、世界では戦争をしている国があります。この研修を通し、一日も早く世界中が誰もが幸せに安心して暮らせるように…と強く思いました。



# D 班 派遣報告



中学生沖縄派遣事業  
成果発表 D班

「平和な世界にしていく、  
続けていくには何が大切か。」



### 【感じたこと・学んだこと】

私は、沖縄派遣を通じて戦争のグロさと戦争との向き合い方を具体的に学べたと思います。

今回の沖縄派遣で私の印象に残ったことはいくつもあります。

一つ目は今と戦争中では戦死の考え方が全く違うことです。今の私達の戦死の考え方と言えば、恐ろしいとか、悲しいのように全くポジティブなワードは一つありません。ですがひめゆりの塔で聞いた戦争中の考え方は「日本国のために戦死することは名誉な事だ。」とされていたそうで本当にゾッとしました。他に聞いた話でも、辛さのあまり米軍に「殺してください。」と頼んだり、生き残った者が「どうして生きてしまったのだろう。」と考えていたと聞きました。どれも生きていたい私にとっては考えられません。たった八十年でここまで人々の考え方は違うものなのだなと感じました。

二つ目は大切な人が亡くなってしまった人達の思いです。私が沖縄派遣で一番知りたかったのが二つ目なのですが、私には大切な人が亡くなった時の気持ちが上手く想像、言葉にできなかったからです。そしてその答えが「亡くなった人達に対して、思い出したくないほど辛い。」とのことでした。せいぜい想像して「忘れないで生きていきたい。」が第一声を予想していました。が、戦後しばらく経っても自分自身で精一杯なのだなと悲しさと驚きがありました。

三つ目はアブチラガマで感じた事です。ガマ内に入った際、「電気の光を消して当時の暗闇を体験してみましよう。」と言われ、実際に光を消してみました。すると、地に立つ感覚と、ガマ内を滴る水の音しか聞こえなくなりました。その時今までガイドの方が話された「ガマ内で待つ負傷兵達は生きて出なかった。」や、「ガマ内はうめき声と酷い臭いで満ちていた。」などの説明を自然に想像してました。とうとう怖い気持ちでいっぱいになって仲間に服をつまませてもらわないと耐えられなくなりました。何秒かしか暗闇にいない私でさえ、こんな様なのですから、当時の人々はどれだけ苦しかったのだろう、と今も考えています。

四つ目は平和記念公園の慰霊碑で感じた事です。今まで私は日本人にしか焦点を当てず、戦争について考えていました。ですが、慰霊碑には沖縄に地上戦などで戦死した外国人も名前を刻んでいると知り、区別なく扱っているのだなと自分の焦点がまるまる変わりました。

そして五つ目が沖縄在住者とのディスカッションの時に学んだ事です。話し合っていた際、「米軍基地についてどう思う？」と問われました。そんなことにまで目が行っていなかった私は「確かに、」と思いました。個人的には「和解できたのに、境界線をひかれるのは悲しい。」と考えましたが、班の仲間と考えが少し違ったり、そもそも見る角度から違ったりしてすごく学べたし、何より楽しかったです。

私は語った以上に大切な事を具体的に学ばせてもらえました。これらを忘れないでこれからも生きていきたいです。

### 【私の平和宣言！】～伝え続ける～

私が平和のためにこれからできることは、沖縄派遣の時に私達に戦争のグロさを教えてくれた方々のように、私達もこれらをトラウマに近い形で伝え続けていく事だと思います。

理由はそもそも私が沖縄派遣に行きたいと思った理由にあると思います。これは派遣に行く前の作文でも書いたのですが、長崎の資料館にて「怖い」、「自分もこんな風に死ぬのかな？」と、トラウマになったと同時に、戦争はしてはいけないことだと強く認識し、もっと知るために派遣に行きたいと思ったのです。この行動の通り、戦争の恐ろしさを知り、戦争はしてはいけない事だと思える人が増えれば、平和のために何かする者も増えるのではないのでしょうか？

そう考え、私は将来、派遣の時に戦争のグロさについて教えてくれた方々のよう職業に就きたいと思い続けています。



## 酒匂中学校 2年 高田 夢奈

### 【感じたこと・学んだこと】

私はこの派遣事業で「戦争は実際に経験してみないとわからない」という言葉をよく耳にしました。それは、ひめゆり学徒隊の方の話であったり、資料館の市民の方の証言であったり形は様々でした。その中でも、私が二日目に訪れた糸数アブチラガマの中で、懐中電灯の灯りを消した時に、真っ暗のガマの中で過ごした人々の気持ちが少しだけ分かった様に感じました。

かつて日本軍が、病院として使用していたガマの最深部は、ガマの他の病床と比べて広がっていました。そこでは、重病患者である日本軍の兵士たちが、まともな治療も受けられずに暗闇の中で死に向かって行くしかなかったのです。ガイドの方の話によると、体の自由がなく、食べるものもほとんどない中、暗闇の中で水の滴る音と周りの患者の発するうめき声や叫び声しか、生きている実感を得られなかったと言います。

実際にそこで懐中電灯の灯りを消してみると、一気に真っ暗になって、自分の手も、隣に立っているはずの友達も見えず、自分が目を開けているのかも分からなくなりました。そんな中で、アメリカ軍の攻撃と迫り来る死期に怯えながら過ごすのはまさに「生き地獄」だったと言えるでしょう。「死ぬ前に少しでいいから家族に会いたい」、「水が飲みたい」、そう願っても叶うことがないまま、死ぬことしかできない無念さ。こんな環境を作り上げた戦争への憤りをどこかにぶつけたくても、何もできない無力さ。そんな思いが懐中電灯の灯りを消した五秒にも満たない時間でひしひしと伝わってきました。

実際に私がガマの中を見学したのは一時間もなかったのですが、当時の人々は三ヶ月以上の時間をそこで過ごしていたと考えると、気が狂っても仕方がないと感じました。ただ、私はその僅かな時間でもいろいろな思いを受けとれたのに、「戦争は実際に経験してみないとわからない」と戦争経験者が皆口をそろえて言うのなら、実際の戦争とは想像もつかないものなのだろうと思いました。

「人を人でなくすのが戦争」と言いますが、この状況を目の当たりにしてみて、人としての権利すら無い、人として扱われないことが当たり前起きていた沖縄戦は、まさにその言葉の通りでした。そんな地獄を生み出した戦争は許していいものではないし、決して美化されてはいけなないと思いました。

私は今まで、戦争については学校で教わったほどの知識しか無かったのですが、この三日間で多くのことを学びました。ひめゆり学徒隊の仕事内容や対馬丸についてなど、自分が知らなかった詳しいことについて深く知れただけでなく、実際にガマや壕に行くことで分かる当時の環境の劣悪さも知れました。他にも、沖縄在住の方とのディスカッションで「戦争」というものは命の重さをも変えてしまうということを知りました。

最後に、この機会を頂きました小田原市長はじめ、同行頂いた市職員、沖縄県で対応頂いた多くの方々、また今回一緒に参加出来た仲間々に感謝すると共に、この体験を一人でも多くの人に伝えたいと思いました。ありがとうございました。

### 【私の平和宣言！】～知ろうとする～

戦後八十年が経ち、戦争を体験した人が少なくなる今、私は戦争の悲惨さと平和の大切さを自分の言葉で伝え、風化させないことが重要だと感じています。沖縄で学んだ経験を通し、戦争のきっかけや背景を知ること、無意識のうちに戦争に加担しないよう意識し、身近な人と平和について考える機会をつくりたいです。また、異なる意見を尊重し、この時代、この世の中に生まれてきたタイミングに意味があると考え、多様な人々と交流しながら、「平和」とは何かを社会に発信していきたいと思っています。



## 千代中学校 2年 石塚 詩

### 【感じたこと・学んだこと】

この沖縄戦で奪われた命が数えきれないほど多くあることを知り、それを「かわいそう」と一言で片づけてしまうのはこれからの平和について考えること、亡くなられた方々に感じる思いに適切ではないと派遣事業を通して強く感じた。そしてかわいそうと思うのではなく、亡くなられた方々の体験などから平和にしていくには、と考えることがこれからの平和な世の中にしてい、維持していくにはとても必要だと学んだ。

・ひめゆり平和祈念資料館ではひめゆり学徒隊の方々が体験された出来事や、不安という思い、恐怖を感じる出来事などを沖縄戦の実相としてしっかり知ることができてよかったです。

・ひめゆり学徒隊の方々が体験されたガマでの仕事、ガマの中で飛び交う思い、米軍への教えなどを沖縄戦で生き残ったひめゆり学徒隊の方からのお話を聴き、これらの事は絶対に語り継がれていくべきだと強く感じたのと同時に、今を生きる私たちだからこそ深く知り、平和について、平和な世の中にしてい、維持していくために知っていく必要があると考えました。

・アブチラガマでは当時の出来事が起こった場所に行くことで沖縄戦での方々がどのような場所でどんな体験をされたのか知ることができ、またその場所ではどんな思いが多くあったのかを深く考えることができました。そんな場所に行くにあたってバスガイドさんのある言葉を聞き、あることを考えました。それは沖縄戦での方々が尊い命を失くし、また繋いできた場所では「怖い」、「かわいそう」といった思いをもって行くべきではないと考

えました。「怖い」、「かわいそう」といった思いをもって行くことはそこで命を失った、繋いできた方々がいた場所に向けるべき思いではない、と考えました。

・対馬丸記念館で展示されていた「姉妹の二つのランドセル」を見て、幼い子供の命が対馬丸での出来事がたくさん奪われていってしまったことを知り、どうしてこんなにも幼い命が奪われていってしまったのか、対馬丸記念館を通して知ることができた。

### 【私の平和宣言！】～平和について知る、忘れない、考える～

私は平和な世の中にし、日本が、世界が平和に満ちた世界にするためには、より多くの方が人の過ちによって、戦争が引き起こされ戦争によって、奪われる尊い命が今現在も、沖縄派遣事業の講師を通じて多くあることを知り、戦争起ると私たちの身の回りや未来に何が起こりえるのか深く、広く知る必要があると思います。

そんな中、自分が平和のためにできることが、何かあるとすればそれは今回の派遣事業を通して知ったこと、考えたことなど人に伝えることだと思います。戦争での出来事が人から人へ語り継がれてきたなら、私が沖縄派遣事業を通して、見て聞いて感じた事を人に伝えることで、平和について考えてもらうきっかけとなるのが大切だと考えます。



## 城南中学校 2年 兎澤 心々実

### 【感じたこと・学んだこと】

この沖縄戦で奪われた命が数えきれないほど多くあることを知り、それを「かわいそう」と一言で片づけてしまうのはこれからの平和について考えること、亡くなられた方々に感じる思いに適切ではないと派遣事業を通して強く感じた。そしてかわいそうと思うのではなく、亡くなられた方々の体験などから平和にしていくには、と考えることがこれからの平和な世の中にしていく、維持していくにはとても必要だと学んだ。

- ・ ひめゆり平和祈念資料館ではひめゆり学徒隊の方々が体験された出来事や、不安という思い、恐怖を感じる出来事などを沖縄戦の実相としてしっかり知ることができてよかったです。
- ・ ひめゆり学徒隊の方々が体験されたガマでの仕事、ガマの中で飛び交う思い、米軍への教えなどを沖縄戦で生き残ったひめゆり学徒隊の方からのお話を聴き、これらの事は絶対に語り継がれていくべきだと強く感じたのと同時に、今を生きる私たちだからこそ深く知り、平和について、平和な世の中にしていくため、維持していくために知っていく必要があると考えました。
- ・ アブチラガマでは当時の出来事が起こった場所に行くことで沖縄戦での方々がどのような場所でどんな体験をされたのか知ることができ、またその場所ではどんな思いが多くあったのかを深く考えることができました。そんな場所に行くにあたってバスガイドさんのある言葉を聞き、あることを考えました。それは沖縄戦での方々が尊い命を失くし、また繋いできた場所では「怖い」、「かわいそう」といった思いをもって行くべきではないと考えました。「怖い」、「かわいそう」といった思いをもって行くことはそこで命を失った、繋いできた方々がいた場所に向けるべき思いではない、と考えました。
- ・ 対馬丸記念館で展示されていた「姉妹の二つのランドセル」を見て、幼い子供の命が対馬丸での出来事がたくさん奪われていってしまったことを知り、どうしてこんなにも幼い命が奪われていってしまったのか、対馬丸記念館を通して知ることができた。

### 【私の平和宣言！】～幸せを見つけて明日へつなぐ～

小田原市中学生派遣事業での経験から戦争の悲惨さを知ったことがきっかけとなり、「今ある平和は当たり前じゃなく多くの犠牲の上に成り立っている」ことを学びました。

だからこそ、私は周囲の人を大切に、相手を傷つけないような言動を意識し、争いではなく話し合いなどで解決しようとする姿勢を持ち続けたい。差別やいじめを見たら目をそらすや止めるなど、日常の中でできる平和を守る行動を積極的に続けていきたいと思います。小さな行動でも平和を守る一歩になると信じています。



# 白山中学校 1年 瀬戸 直子

## 【感じたこと・学んだこと】

今回の沖縄派遣事業では、現地で実際に見て聞いて学ぶことによって感じたこと、心に残ったことがたくさんありました。そして、これから平和な世の中にするためにできることを自分なりに考えを持つことができました。

ひめゆり平和祈念資料館では、学徒隊のいた陸軍病院の環境のひどさを知りました。今では考えられないようなひどい状況で、重傷を負った兵士の看病をするという活動は命がけだったと考えました。また鎮魂のエリアでは、バレーボール部員の方の写真を見つけた時、私もバレーボール部なので今の自分と重なり心が苦しくなりました。中でも一番心に残ったのが、突如出された解散命令です。まだ子供である学徒隊の方々を地獄のような状況の戦場に放り出したために多くの人が犠牲になり、自ら命を絶ってしまうこともあったという事実、打ちのめされました。

平和記念公園(資料館)では、その礎の多さに驚きました。約 20 万人という数は、簡単には想像できないほど膨大な数字です。私は、平和の礎に刻まれた犠牲者の方々の名前の多さに驚きました。多くの犠牲の中の一人一人を尊重し、県内外や国籍を問わず刻銘されていたのです。しかし、まだ身元の分かっていない犠牲者の方々がいることに、沖縄戦で出た犠牲の多さをひしひしと感じました。

対馬丸記念館では、私たちよりも小さい子供たちが戦争の被害を受けたことを学びました。疎開先につくことを待っていた人たちが、真夜中の海に放り出され、波にのまれるなどの様々な理由で犠牲になっていったことが衝撃的でした。また、奇跡的に生き残った人々には、「対馬丸が撃沈したことを決して話してはならない」という”箝口令”が厳しく敷かれ、家族にさえも話してはいけなかったことで、さらなる苦しみを背負いながら疎開生活を続けることになったということを知り、戦争による影響はかなり大きいものだったと考えました。

アブチラガマでは、当時実際に使っていたガマに入ること、どれだけ悲惨なことが起きたかをより感じる事ができました。ガマの中は外よりも涼しく、そして真っ暗でした。持っている懐中電灯を消すと、その暗さがよくわかりました。自分が目を開けているのか閉じているのかわからないほどの暗闇でした。当時はその中で病院をやっていたことを考えると、驚きが隠せませんでした。また、爆風で吹き飛んだ破片が天井に刺さっているのを見て、爆発の威力や恐ろしさを感じました。このような悲惨な出来事が過去に沖縄であったことを学び、私自身の平和に対する考え方も少し変わってきたと感じました。

今までのニュースで知る戦争、教科書で学ぶ戦争と、実際に見て感じた戦争の歴史は、今の私たちでは想像できないような、本当に悲惨で胸が苦しくなる事実の連続でした。そのようなことが二度と起きてほしくないし、絶対に起こしてはいけないと私は強く思いました。

## 【私の平和宣言！】～あたりまえに感謝する～

私は、今回の派遣事業を通し、平和のために自分ができることを二つの考えを持ちました。一つは、今ある「当たり前」を大切にすることです。

陸軍病院に動員された学徒隊の生活は、今の「当たり前」とはかけ離れた生活をしていたことがわかります。ちぎれた腕や足の処理、目の前で人が亡くなっていく様子。そんな状況に置かれた学徒隊の方々の気持ちを考えると、心が苦しくなってきます。今ある「当たり前」が当たり前ではないこと、今の当たり前を大切にすること、それを守るために行動することが、平和につながると思いました。もう一つは、過去にあったことを忘れないことです。今私たちが平和に暮らせていることは、ずっと前の世代の方が、戦争で夢や希望や大切な家族の命までも壊されたにもかかわらず、生きる希望を持ち続け、私たちに「今」を残してくれたからです。そのことに感謝し、過去を忘れずに生きることがさらなる平和につながると思いました。



## 日大三島中学校 1年 高橋 果希

### 【感じたこと・学んだこと】

私は先日、戦争や平和について深く学ぶために、沖縄派遣事業に参加しました。沖縄では、さまざまな戦争遺跡や資料館を訪れることで、多くのことを感じ、学びました。その中で特に、ひめゆり平和祈念資料館、対馬丸記念館、アブチラガマが印象に残りました。どの場所も戦争の悲惨さを伝える重要なところであり、そこに立ち入ることで、戦争の現実や悲劇を身近に感じることができました。

まず、ひめゆり平和祈念資料館では、戦争で命を奪われた少女たちの遺影や資料が展示されており、その悲惨さに胸が締め付けられました。彼女たちの多くの命が戦争によって奪われた事実、深い衝撃を受けました。さらに展示を前にして、私は何度も目をそらしたくなるようなことがありました。しかし、それは過去の日本で起きた事実として、私は決して忘れてはいけないと強く感じました。また、80年前には生きてくても戦争で生きられなかった人が日本にはたくさんいたことが分かりました。だからこそ、今日平和に生活できることに感謝をして生きていきたいと思います。

次に対馬丸記念館では、対馬丸に乗って亡くなった人たちの名前が全て記されており、心を深く揺さぶられました。特に、何も罪のない子供たちが、疎開先に向かう途中で命を落とし、幼くして未来を奪われたことに、深い悲しみと怒りを覚えました。また、疎開をする中で、子供たちの不安や恐怖、そして家族との別れなどで心細い中、アメリカ軍の攻撃を受け、逃げ場のない船で必死に助けを求める姿などを思い浮かべて、「とても胸が締め付けられました。」

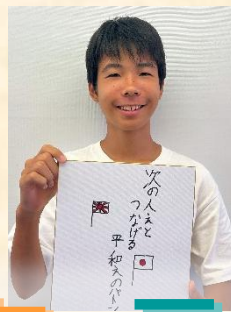
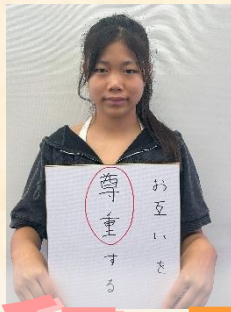
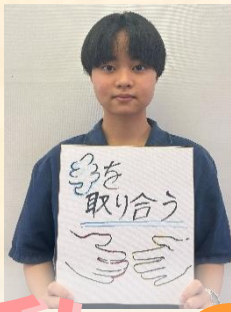
最後にアブチラガマでは、暗く狭い洞窟の中の厳しい環境に圧倒されました。とても怖くて、暗闇の中で人々が暮らしながら戦ったことを思うと、心が痛みました。また、実際に洞窟の中に入ると、怪我をした日本兵の苦しむ声や、いつ死ぬかわからない状況の中で必死に生きていた人々の姿を思い浮かべ、戦争の過酷さを深く感じました。

これらの場所を訪れて、私は戦争の悲惨さと平和の尊さについて多くを学び、二度と戦争を繰り返してはいけないと改めて実感しました。戦争によって奪われた命の重さ、家族や未来を奪われた人々の悲しみ、そして何よりも平和の大切さを痛感しました。私は、このような悲しい過去が日本で起きたことを忘れずに、今回学んだことを家族や友人など、次の世代の人達にも伝えていきたいです。

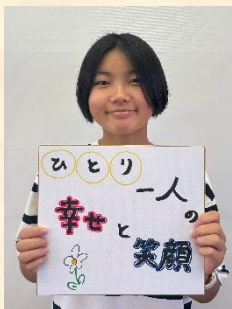
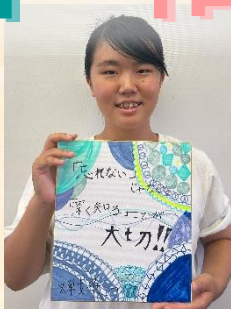
### 【私の平和宣言！】～一人の行動が世界の平和につながる～

私が平和のためにできることは、まず周りの人に思いやりを持って接し、争いを避けることだと思います。また、過去に起きた戦争の悲惨さや平和の大切さについてしっかり学び、そのことを家族や友人など、次の世代の人達にも伝えることで、平和の大切さについて考えるきっかけにしたいです。さらに、差別や偏見、いじめなどに立ち向かうことも、平和な世界をつくるために大切だと、私は思います。私は、世界中の誰もが安心して安全に暮らせる未来を願い、自分にできることから少しずつ行動していきたいです。例えば、募金活動やボランティア活動、平和を広める活動に参加したり、困っている人に優しく接したり、助けたりすることが、平和に向かう道だと思います。どんなに小さなことでも続けることで、やがて大きな変化につながると、私は信じています。未来の世界の誰もが安心して安全に笑顔で暮らせる場所になるように、私は日々努力していきたいです。





# 私の平和宣言

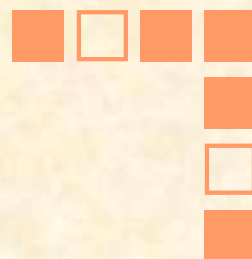


## 小田原市平和都市宣言

わが国は世界で唯一の核被爆国であり  
国民は日本国憲法にもとづく恒久平和の  
実現をめざし世界から核兵器を廃絶する  
ことを共通の願いとしています

わたくしたちのまち小田原は過去に戦災  
を被るといふ悲しい歴史を持っています  
そして多くの歴史的文化遗产を守り続けて  
いるわたくしたちにはこうした惨禍をくり  
返すことのないよう平和を守りきらめく  
城下町を次の世代へ引き継いでいく責務  
があります

小田原市は美しい地球を大切にし輝か  
しい人類の未来を信じ世界平和を実現する  
ためここに永久に平和都市であることを  
宣言します



戦後80年事業  
中学生沖縄派遣事業 成果報告書

令和8年（2026年）3月発行

編集・発行

小田原市 総務部 総務課

〒250-8555 小田原市荻窪300番地

電話：0465-33-1291



本書は、小田原市HPでご覧になれます。

